

小・中学校における政治的教養を育む教育

指導資料



平成 29 年 3 月
神奈川県教育委員会

はじめに

教育基本法第 14 条第 1 項には「良識ある公民として必要な政治的教養は、教育上尊重されなければならない」と示されています。児童・生徒に政治的教養を育むことは、学校教育の責務の一つです。

平成 27 年 6 月に公職選挙法が改正され、選挙権年齢が満 18 歳以上に引き下げられました。これを受け文部科学省では、小学校及び中学校各教科等教育課程研究協議会（平成 27 年 11 月）において、高等学校段階に加え、小・中学校段階でも「国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養う教育の充実に向けた取組が必要」との見解を示しています。

本県では、国に先駆けこれまでも県立高等学校等において、シチズンシップ教育の一環として「政治参加教育」に取り組んできました。そして選挙権年齢の引下げに伴い、その更なる充実を図っています。

これらをふまえ県教育委員会では、小・中学校段階における政治的教養を育む教育の在り方について検討し、各学校における指導の参考となる資料を作成することをねらいとして、平成 28 年 5 月に「政治的教養を育む教育検討会議」を設置しました。

本検討会議では、はじめに「政治的教養」のとらえ方や、小・中学校段階において身に付けさせたい力について検討・整理を行いました。そして、発達の段階に応じた指導を系統的に行っていくことや、これまで各学校で積み重ねてきた学習を最大限に活かすこと等に留意するとともに、実際の指導場面で活用しやすいものとなるよう本資料を作成しました。

各学校においては、各教科・領域の授業をはじめ、学校行事や児童・生徒会活動、学級経営など、自校の教育活動のねらいや指導方法等について、本資料で示した視点から改めて見直していただきたいと考えます。そうすることで、すべての児童・生徒に、自分の身の周りから広く社会まで関心をもち、課題に気付き、考え、自らの意見を表明するとともに、他者の意見を尊重する、そして主体的に社会に参画するといった姿勢や力が育まれていくことを期待します。

政治的教養を育む教育を推進するうえで、学校における政治的中立性を確保することは不可欠です。各学校においては、教育基本法第 14 条第 2 項を厳守するとともに、一人ひとりの教職員が教育公務員特例法に則り職務にあたるよう改めての徹底をお願いします。

結びとなりますが、本指導資料の作成にあたり、熱心に検討会議を推進していただくとともに、示唆に富む考え方や具体的な情報を提供していただいた慶應義塾大学 S F C 研究所の西野偉彦上席所員をはじめ、貴重な御助言を賜った検討会議の委員の皆様にご心より感謝申し上げます。さらに作業部会において、貴重な授業提供をしていただいた横浜国立大学附属横浜小学校及び鎌倉中学校をはじめ、各市町村教育委員会及び学校教職員の皆様の熱心な協議に対し、心より感謝申し上げます。

神奈川県教育委員会教育局支援部子ども教育支援課長

もくじ

■ はじめに	1
■ もくじ	2
1 小・中学校における「政治的教養を育む教育」とは	4
2 「政治的教養を育む教育」の身に付けさせたい力の視点	8
3 「政治的教養を育む教育」の系統的な学び	10
4 政治的中立性の確保について	12
5 指導例の見方	14

小学校での指導例 6-1～9-3

6-1 小学校 1年生生活科 「かぞくだいすき だいさくせん！」	16
6-2 小学校 2年生生活科 「大好き わたしのまち」	18
6-3 小学校 2年生生活科 「あしたへダッシュ！大きくなったわたし」	20
7-1 小学校 3年生社会科 「変わり麺を考え、提案しよう」	22
7-2 小学校 5年生社会科 「森林とわたしたちの暮らし」	24
7-3 小学校 5年生社会科 「わたしたちの食生活と食料生産」	26
7-4 小学校 5年生社会科 「自然災害とともに生きるわたしたち」	28
7-5 小学校 6年生社会科 「古代ヘタイムスリップ！あなたならどちらを選ぶ？」	30
8-1 小学校 低学年特別活動（学級活動） 「みんながもっと仲良くなるお楽しみ集会を考えよう」	32
8-2 小学校 中学年特別活動（学級活動） 「クラス集会をしよう」	34
8-3 小学校 高学年特別活動（児童会活動） 「児童の意見や発想を生かした児童会活動」	36

8-4	小学校 高学年特別活動(児童会活動) 「代表委員会のあり方を考えよう」	38
9-1	小学校 中学年総合的な学習の時間 「笑顔と笑顔が会う私たちのまち」	40
9-2	小学校 高学年総合的な学習の時間 「下町活性化プロジェクト」	42
9-3	小学校 高学年総合的な学習の時間 「お米の秘密を探ろう～農薬を使う？使わない？～」	44
中学校での指導例 10-1～12-2		
10-1	中学校 1年生社会科[地理的分野] 「南アメリカ州 アマゾンの森林開発と環境保全」	46
10-2	中学校 2年生社会科[地理的分野] 「鎌倉の防災について考えよう」	48
10-3	中学校 3年生社会科[公民的分野] 「地域のゴミ処理について考えよう」	50
10-4	中学校 3年生社会科[公民的分野] 「安心して暮らせる社会とは？」	52
11-1	中学校 特別活動(学級活動) 「学級委員を中心に学期末の反省をしよう」	54
11-2	中学校 特別活動(生徒会活動) 「生徒総会のあり方を考えよう」	56
11-3	中学校 特別活動(生徒会活動) 「生徒会役員選挙を活性化していこう」	58
11-4	中学校 特別活動(学校行事) 「地域の一員として参加する学校行事」	60
12-1	中学校 総合的な学習の時間 「地域の伝統や文化をよりよいもので継承しよう」	62
12-2	中学校 総合的な学習の時間 「地域の高齢者と共に生活する社会を創るには」	64
13	指導例の実践	66
14	選挙管理委員会の取組	68
15	参考資料	72

1 小・中学校における「政治的教養を育む教育」とは

小・中学校で「政治的教養を育む教育」(1)に取り組む背景

(1) 国のうごき

平成 27 年 6 月に公職選挙法が改正され、選挙権年齢が満 18 歳以上になったことから、高等学校段階での政治的教養を育む教育の充実が求められています。これを受け、国では、平成 27 年 10 月の文部科学省初等中等教育局長通知「高等学校等における政治的教養の教育と高等学校等の生徒による政治的活動等について」を発出するとともに、平成 27 年 12 月に全国のすべての高等学校の生徒に対し、副教材『私たちが拓く日本の未来』を配付しました。

この『私たちが拓く日本の未来』では「政治的教養を育む」ために、国家・社会の形成者として求められる力として、次の 4 つの力や態度の育成が示されています。

論理的思考力

現実社会の諸課題について多面的・多角的に考察し、公正に判断する力

現実社会の諸課題を見出し、協働的に追究し解決（合意形成・意思決定）する力

公共的な事柄に自ら参画しようとする意欲や態度

こうした力や態度を育成するために、3 つの学習方法も示されています。

正解が一つに定まらない問いに取り組む学び

学習したことを活用して解決策を考える学び

他者との対話や議論により、考えを深めていく学び

これらの学習方法は、これまでも小・中学校の授業の中で、日常的に取り組まれていることであり、引き続き小・中学校の児童・生徒の発達の段階に応じて、このような学びを、意識的に様々な場面で取り入れていくことが大切になります。

また、平成 27 年 11 月に開催された「小学校及び中学校各教科等教育課程研究協議会」の社会科部会において、文部科学省は高等学校における対応と取組について解説する中で、

小・中学校段階についても、国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養う教育の充実に向けた取組

学習指導要領に基づき、小・中学校において政治や選挙等に関する教育を実施すること

について、その必要性を言及しています。

さらに、平成 28 年 3 月 31 日の文部科学省「主権者教育の推進に関する検討チーム」中間まとめでは、基本的な考え方として「単に政治の仕組みについて必要な知識を習得させるにとどまらず、主権者として社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一人として主体的に担うことができる力を身に付けさせること」が示されています。

(2) 神奈川県立高等学校等が取り組む「政治参加教育」について

神奈川県教育委員会では、平成 23 年 2 月に発行した「シチズンシップ教育 指導用参考資料」を活用し、すべての県立高校及び中等教育学校で「シチズンシップ教育」に取り組んでいます。その 4 本の柱(2)の 1 つに「政治参加教育」があります。ここでは、模擬投票等を通じて、政治と選挙についての学習などにより、政治意識を高め、主体的に政治に参加する意欲と態度を養うことをねらいとしています。

シチズンシップ教育の取組方針

これからの社会を担う自立した社会人を育成するために、積極的に社会参加するための能力と態度を育成する実践的な教育をシチズンシップ教育として位置付け、すべての県立高校で取り組む。

シチズンシップ教育は、かながわの教育がめざす人づくりの基本理念を実現するための教育目標を踏まえ、「思いやる力」「たくましく生きる力」「社会とかかわる力」を育成するために、キャリア教育の一環として位置付け、家庭や地域、関係機関等の理解や協力を得ながら取組を進める。

「かながわ教育ビジョン」
教育目標 (めざすべき人間力像)

The diagram consists of three overlapping circles arranged in a triangle. The top circle is labeled '【思いやる力】' (Empathy) and contains the text '他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる'. The bottom-left circle is labeled '【たくましく生きる力】' (Resilience) and contains '自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる'. The bottom-right circle is labeled '【社会とかかわる力】' (Social skills) and contains '社会とのかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献する力を育てる'. In the center, where all three circles overlap, is the text '自己肯定感' (Self-esteem).

シチズンシップ教育のねらい

神奈川県立高等学校及び中等教育学校が取り組むシチズンシップ教育では、より良い社会の実現に向けて、規範意識をもった豊かな人間性の育成を目指し、必要な知識や技能を習得するとともに、様々な体験活動を通じて、実社会で生きる知恵と経験を獲得する学びを進め、一人ひとりが主体的に生きていく上で必要な能力と態度を養うことをねらいとする。

高等学校向け指導用参考資料集「政治参加教育」 平成 27 年 9 月

- (1) 神奈川県教育委員会では、小・中学校においては学習指導要領(平成 20 年度版)に基づき、「政治的教養を育む教育」という名称を使っています。
- (2) シチズンシップ教育の 4 本の柱...政治参加教育、司法参加教育、消費者教育、道徳教育

小・中学校における「政治的教養を育む教育」のとりえ

神奈川県教育委員会では、こうした県立高校及び中等教育学校での「シチズンシップ教育」の取組やねらいをふまえ、かながわの小・中学校で学ぶ児童・生徒が、「政治的教養を育む教育」とおして、主体的に社会参画できる力の育成を目指しています。

教育基本法第14条には「良識ある公民たるに必要な政治的教養は、教育上これを尊重しなければならない」と定めています。法律上の「政治的教養」とは、「a.民主政治、政党、憲法、地方自治等、民主政治上の各種制度についての知識、b.現実の政治の理解力及びこれに対する公正な批判力、c.民主国家の公民として必要な政治道徳、政治的信念」とされています。これらを参考にして、神奈川県教育委員会では「政治的教養を育む教育」の「政治的教養」を次のようにとらえることとしました。

「政治的教養」

政治そのものの仕組みや政策について学ぶだけではなく、児童・生徒の発達の段階に応じて、自分の身の周りや住んでいるまち等の身近な問題から現実社会における社会的な諸問題まで、それらを自分のこととしてとらえ、話し合い、相手を尊重し、様々な意見を自分の中で考え合わせながら、合意形成のかたちを想定し、意思を決定するに至る過程を大切に、社会参画につなげていくこと

さらに、「政治的教養を育む教育」の実践を進めるうえで、次の3点が大切であると考えます。

主に小学校の高学年や中学校で取り上げる現実社会における社会的な諸問題についても、様々な議論や解決の方策があることをふまえたうえで、児童・生徒が現状や事実をしっかりと認識し、「よりよい社会」とは何かを自分なりに追究していくこと

現実社会における社会的な諸問題については、解決の方策が一つに定まらない問いや課題が多くみられます。そこで、問いを設定する際には、具体的な事例を取り上げることが有効です。具体的な事例を取り上げることで、解決の方策についての様々な資料の収集が可能となり、それらを読み取り、議論をとおして問いや課題を自分のこととしてとらえることができるようになります。

また、ここで考える「よりよい社会」とは、自分のことだけでなく、身の周りの集団や社会が平等であり、公正で平和であることを示しています。さらに、「よりよい社会」は、持続可能な社会を形成するという観点からとらえることが大切です。

新たな知識、技能や学習方法を求めていくだけではなく、今まで各学校において積み重ねてきた学習に、児童・生徒の発達の段階に応じて、学習していく過程の中で「政治的教養を育む教育」の身に付けさせたい力の視点を加えていくこと

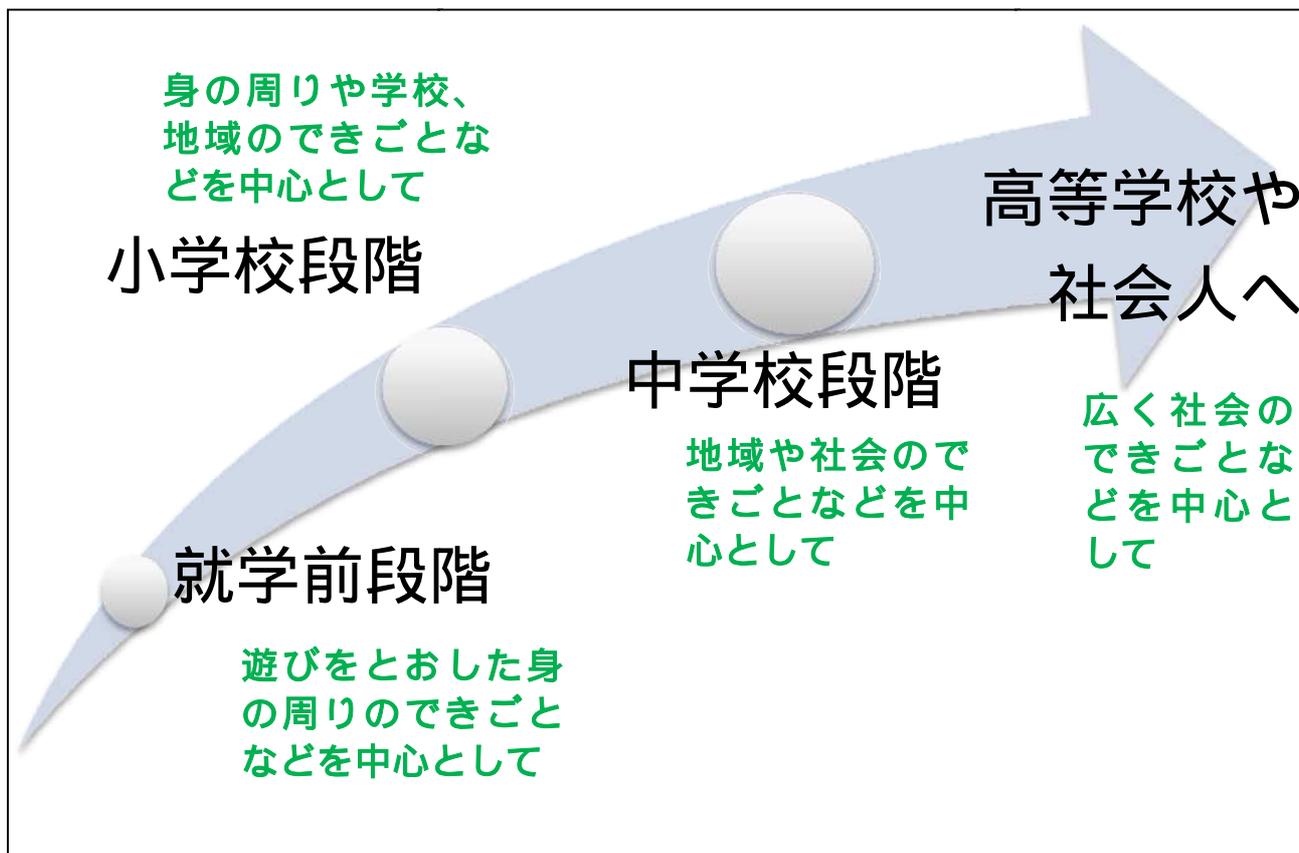
教員は、各学校が日常的に取り組んでいる様々な教育活動の中で、「政治的教養を育む教育」をとおして身に付けさせたい力の視点（詳しくは8ページ『学びのプロセス』にて解説）をもつことが大切です。その身に付けさせたい力の視点は、全ての教科や領域において、汎用的に活用できるものです。

小学校・中学校・高等学校の12年間を見通し、発達の段階に応じた指導を系統的に行っていくこと

「政治的教養を育む教育」は、単発的に行われるものではなく、発達の段階に応じて継続的に、かつ系統的に行われるものです。この指導資料では小学校低学年から中学校までの例を挙げていますが、例えば幼稚園においても、遊びの中で遊具をどのように自分たちが使うか等、幼児には幼児の発達の段階に応じた合意形成のかたちがあり、問題解決の方策があります。「政治的教養を育む教育」は、児童・生徒の成長とともに、対象となる事象も広がり、学習プロセスで身に付けさせたい力も積み重なります。

このように「政治的教養を育む教育」は、幼稚園等、小学校、中学校、高等学校や社会人までのつながりを意識することが大切です。

「政治的教養を育む教育」の発達の段階に応じた学習課題の設定における系統的なイメージ



2 「政治的教養を育む教育」の身に付けさせたい力の視点

身に付けさせたい力

様々な課題をとおして、他者と連携・協働しながら、自らの考えを深め、主体的に判断し、よりよい社会のために行動できる姿勢を育てていくために、それぞれの発達段階に応じた指導の中で、身に付けさせたい力の視点を「学びのプロセス」として整理しました。

ここでは、8つの「学びのプロセス」を整理しましたが、必ずしも最初から順に学習しなければならないということではありません。また、単元や毎時間の授業で全てのプロセスを学習しなければいけないというものでもありません。この「学びのプロセス」の視点を、単元を構成する際や毎時間の授業実践、さらには教科・領域における学習活動等に積極的に取り入れて行くことが大切です。

本指導資料では特に小・中学校の社会科、特別活動、総合的な学習の時間の指導例を示すことにしました。

学びのプロセス 《大切にしたい学習活動》

自分の身の周りのできごとに関心をもつ

関心をもって積極的に関わろうとすること

学級、学校、地域等の課題に気付く

身の周りのできごとに対して情報を収集できること

課題について考える

課題について多面的・多角的に考えること

様々な考えから、自分の考えを構築する

課題を自分のこととしてとらえ、判断すること

他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する

他者と連携・協働し、判断・調整して相手を尊重して考えること

再構築した自分の考えを表明する

課題に対して、自分の意思を決め、発表すること

主体的に社会に参画する

よりよい社会をつくるために、積極的に社会に参画していくこと

自分自身を振り返る

自分自身を振り返り、次の活動につなげていくこと

学びのプロセス の視点を取り入れた授業の場面

(小・中学校共通のこと、 主に小学校に関わること、 主に中学校に関わること)

自分の身の周りのできごとに関心をもつ場面

学習する単元や時間のねらいを明確にしましょう。

学校や地域で学習課題になりそうな教材や問題点を明らかにしましょう。

ニュースや新聞で社会の動きに関心をもつことができるようにしましょう。

学級、学校、地域等の課題に気付く場面

ねらいを達成するための教材や資料を用意しましょう。

社会見学や体験活動を何のために行うのかねらいを明らかにしましょう。

既習事項や今までの経験から得られた疑問や考えを大切にすることができるようにしましょう。

課題について考える場面

「どうして～だろうか」「なぜ～だろうか」「どのように～したのだろうか」など課題意識をもたせる学習課題を設定しましょう。

いろいろな立場の考えや意見があることに気付くことができるようにしましょう。

国際社会や文化の違い等でさまざまな視点があることに気付くことができるようにしましょう。

○様々な考えから、自分の考えを構築する場面

学習課題を自分のこととしてとらえられるように設定しましょう。

「どうしたらよりよい社会(学校、地域)になるのか」を考えることができるようにしましょう。

「対立と合意」「効率と公正」()があることに気付くことができるようにしましょう。

○他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する場面

なぜ、そのように考えるのか、根拠をもつことができるようにしましょう。

他人の意見を尊重し、しっかりと聞いて、自分の考えと比べることができるようにしましょう。

再構築した自分の考えを表明する場面

考えたことをノートに書いたり、説明したりできるようにしましょう。

○主体的に社会に参画する場面

よりよい社会にするためにはどうしたらよいかを考えることができるようにしましょう。

今までの学習をもとにして考えることができるようにしましょう。

○自分自身を振り返る場面

単元のまとめを書いて、学びを振り返り、自己評価する場面を設定しましょう。

() 効率と公正...「効率」とは社会全体で「無駄を省く」という考え方

「公正」とは手続きの公正さや機会の公正さ、結果の公正さ等

3 「政治的教養を育む教育」の系統的な学び

発達段階に応じた系統的な学び

小学校(低学年)

【関わり、考える場面】

学級生活を楽しくするためなどの集団活動をとおり、自己の役割や集団で助け合う活動の方法などについて考えることができる。

【判断し、説明する場面】

学級生活を楽しくするために話し合い、自分にあった解決方法などについて判断できる。

【意思を決定し、社会に参画する場面】

人間関係をよりよく築こうと、進んで集団活動に取り組もうとすることができる。

小学校(中学年)

【関わり、考える場面】

楽しい学級生活をつくるためなどの集団活動をとおり、自己の役割や集団で協力し合う活動の方法などについて考えることができる。

【判断し、説明する場面】

日常生活や学習課題について話し合い、自分にあったよりよい解決方法などについて判断できる。

【意思を決定し、社会に参画する場面】

人間関係をよりよく築こうとしたり、意欲的に集団活動に取り組もうとしたりすることができる。

特別活動

【関わり、考える場面】

自分と身近な人々及び地域の様々な場所、公共物などの関わりに関心をもち、地域のよさに気付き、愛着をもつことができる。

自分と身近な自然との関わりに関心をもち、自然のすばらしさに気付き、自然を大切にしたり、自分たちの遊びや生活を工夫したりすることができる。

【判断し、説明する場面】

身近な人々、社会及び自然に関する活動の楽しさを味わうとともに、それらをとおり、気付いたことや楽しかったことなどについて、言葉、絵、動作、劇などの方法により表現し、考えることができる。

【意思を決定し、社会に参画する場面】

社会や集団の一員として自分の役割や行動の仕方について考え、安全で適切な行動ができる。

身近な人々、社会及び自然との関わりを深めることをとおして、自分のよさや可能性に気付き、意欲と自信をもって生活することができる。

生活

社会

【関わり、考える場面】

社会的事象の意味、特色や相互の関連から、自分の考えをもつことができる。

【判断し、説明する場面】

学習したことをもとにして、根拠や理由を明確にしながらか自分の考えを説明できる。

【意思を決定し、社会に参画する場面】

自分の考えや他者の考えを聞いて、自分のこととして物事をとらえることができる。

総合的な学習の時間

【関わり、考える場面】

課題の解決に向けて、探究活動に主体的に取り組もうとする。

【判断し、説明する場面】

問題状況における事実関係を把握し、多様な情報の中にある特徴等を見付ける。

【意思を決定し、社会に参画する場面】

探究的な課題解決の経験を自信につなげ、次の課題へ進んで取り組もうとする。

【関わり、考える場面】... 自分の身の周りのできごとに関心をもつ場面 学級、学校、地域等の課題に気付く場面
課題について考える場面

【判断し、説明する場面】... 様々な考えから、自分の考えを構築する場面
他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する場面

【意思を決定し、社会に参画する場面】... 再構築した自分の考えを表明する場面 主体的に社会に参画する場面
自分自身を振り返る場面

小学校(高学年)	中学校	高等学校
-----------------	------------	-------------

<p>【関わり、考える場面】 楽しい学級や学校の生活をつくるためなどの集団活動をとおして、自己の役割や集団で信頼し支え合う活動の方法などについて考えることができる。</p> <p>【判断し、説明する場面】 日常生活や学習課題について話し合い、自分にあったよりよい解決方法などについて判断できる。</p> <p>【意思を決定し、社会に参画する場面】 人間関係をよりよく築こうとしたり、自主的に集団活動に取り組みようとするなどことができる。</p>	<p>【関わり、考える場面】 自主的・実践的な集団活動をとおして、自己の役割と責任を自覚し、集団におけるよりよい生活づくりなどについて考えることができる。</p> <p>【判断し、説明する場面】 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができる。</p> <p>【意思を決定し、社会に参画する場面】 人間関係をよりよく築こうとしたり、自主的、自律的に集団活動に取り組みようとするなどことができる。</p>	<p>【関わり、考える場面】 集団生活や社会の課題について考えることができる。</p> <p>【判断し、説明する場面】 所属する様々な集団や自己の課題について、話し合うことができる。</p> <p>【意思を決定し、社会に参画する場面】 合意形成を図ったり、意思決定を図ったりして社会をよりよく形成しようとしている。</p>
---	---	--

<p>【関わり、考える場面】 社会的事象の意味、特色や相互の関連を多角的に考えることができる。</p> <p>【判断し、説明する場面】 学習したことを基にして、社会への関わり方を選択・判断し、自分の考えを論理的に説明できる。</p> <p>【意思を決定し、社会に参画する場面】 立場や根拠を明確にして自分の考えをもち、自分たちにできることを主張できる。</p>	<p>【関わり、考える場面】 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考えることができる。</p> <p>【判断し、説明する場面】 複数の立場や意見をふまえて、選択・判断し、主旨が明確になるように内容構成を考えて自分の考えを説明できる。</p> <p>【意思を決定し、社会に参画する場面】 他者の主張をふまえたり、取り入れたりしながら、自分の考えを再構成して社会への関わりについて主張できる。</p>	<p>【関わり、考える場面】 社会に見られる複雑な課題を把握して、概念や身に付けた判断基準から考えることができる。</p> <p>【判断し、説明する場面】 複数の立場や意見から適切なものを選択し、自分の考えを効果的に説明したり、論述したりできる。</p> <p>【意思を決定し、社会に参画する場面】 合意形成や社会参画を視野に入れながら、構想したことを、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論できる。</p>
---	--	--

<p>【関わり、考える場面】 自分らしさを発揮して探究活動に向き合い、手段を選択し、情報を収集する。</p> <p>【判断し、説明する場面】 課題の解決に向けて、相手や目的、意図に応じて分かりやすくまとめ、表現する。</p> <p>【意思を決定し、社会に参画する場面】 実社会、実生活への興味・関心につながり、進んで地域の活動に参加しようとする。</p>	<p>【関わり、考える場面】 課題の解決に向けて、必要な情報を収集し、多角的に分析する。</p> <p>【判断し、説明する場面】 互いの特徴を生かすなど、協同的な取組から因果関係を推測し、論理的に表現する。</p> <p>【意思を決定し、社会に参画する場面】 社会の形成者としての自覚をもち、積極的に社会参画しようとする。</p>	<p>【関わり、考える場面】 課題に真摯に向き合い、必要な情報を広い範囲から収集し、多角的に分析する。</p> <p>【判断し、説明する場面】 異なる意見や他者の考えを受け入れ、自分の考えを形成し、論理的に表現する。</p> <p>【意思を決定し、社会に参画する場面】 自己有用感や社会貢献の意識へとつなげ、よりよい社会の実現に努めようとする。</p>
--	--	---

4 政治的中立性の確保について

学校における指導上の留意点

(1) 法律上のおさえ

学校における政治的中立性の確保は、教育基本法第14条第2項により定められています。

教育基本法第14条

(政治教育)

第十四条 良識ある公民として必要な政治的教養は、教育上尊重されなければならない。

2 法律に定める学校は、特定の政党を支持し、又はこれに反対するための政治教育その他政治的活動をしてはならない。

(2) 小・中学校での政治的中立性を確保するためのポイント

神奈川県教育委員会の小・中学校における「政治的教養を育む教育」では、「政治的教養」を『政治そのものの仕組みや政策について学ぶだけではなく、児童・生徒の発達の段階に応じて、自分の身の周りや住んでいるまち等の身近な問題から現実社会における社会的な諸問題まで、それらを自分のこととしてとらえ、話し合いながら、相手を尊重し、様々な意見を調整しつつ、合意形成のかたちを考え、意思決定に至る過程を取り上げて、社会参画につなげること』としてとらえています。小・中学校においても、「政治的教養を育む教育」を実践するにあたり、政策や論争等、対立する見解がある現実社会の諸問題を取り扱うことは有効であると考えます。

そこで、神奈川県教育委員会では「政治的教養を育む教育」を実践する際に、政治的中立性を確保するためのポイントを、次の2点にまとめました。

身の周りのできごとや現実の社会でおきている課題には様々な見方・考え方があることをふまえ、様々な見方・考え方を提示した指導を行いましょう

多様な意見を引き出せるように、発問、資料、環境設定に配慮し、指導を行いましょう

< 身の周りのできごとや現実の社会でおきている課題には様々な見方・考え方があることをふまえ、様々な見方・考え方を提示した指導を行いましょう >

身の周りのできごとや現実の社会には多様な見方・考え方があることから、児童・生徒が一つの見方・考え方だけでなく、多様な見方・考え方を聞いたり知ることによって、自分の考えを変化・深化させたりすることで、深い学びにつなげるように指導しましょう。

< 多様な意見を引き出せるように、発問、資料、環境設定に配慮し、指導を行いましょう >

「政治的教養を育む教育」では、解決の方策が一つに定まらない問いや課題が数多くあります。

問いや課題について、児童・生徒一人ひとりが、多面的・多角的に考え、自分のこととしてとらえ、判断することで、自分の意見をもてるようにしましょう。児童・生徒の意見については、その問いや課題についての事実をしっかりと認識した意見であることが求められます。そのうえで、児童・生徒一人ひとりが、自分の意見をもち、その意見が他の児童・生徒や教員にきちんと受け止められていると実感することが大切です。

そのためには、まず教員が発問や資料、環境設定の工夫をし、児童・生徒の多様な意見を引き出し、受け止めることが大切です。

また、児童・生徒の意見がひとりよがりな意見にならないように、指導しましょう。他者の意見を受け入れ、尊重することが大切です。他者の様々な意見を聞き、合意形成をしていくかたちは一つの意見にまとめるということだけではなく、新たな考えを見出したり、その中庸の意見になったりすることもあります。

(1) の法律に基づき、(2) の や に留意しながら、政治的中立性を確保し、児童・生徒の学習活動を展開することを心がけましょう。

5 指導例の見方

指導例の左側のページは「単元目標」や「目指す子どもの姿」、「単元の流れ」を記載し、右側のページは「政治的教養を育むためのポイント」として学びのプロセスの解説や授業展開例、その単元や活動等で特に注意したい事項を記載しています

指導例の見本

指導事例

【単元目標】

【目指す子どもの姿】

1 本単元の流れと「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

学習活動(全5時間)	ポイントになる学びのプロセス
①	
②	ポイント1
③	
④	ポイント2
⑤	

2 政治的教養を育むためのポイント

ポイント1

ポイント2

タイトル

指導事例で扱う単元や活動の学習課題や主題を示しています。

単元目標

社会科、総合的な学習の時間はその「単元目標」、特別活動ではその活動の「目標」を示しています。

目指す子どもの姿

指導事例の単元や活動において、「政治的教養を育む教育」で児童・生徒に特に身に付けさせたい姿を示しています。

学習活動（特別活動は「活動の流れ」）

小單元ごとの学習課題や活動の内容を示しています。小單元において何時間で扱うかは中の数字で示しています。

例)「考えをまとめよう」...「考えをまとめよう」という学習課題を1時間で扱う

ポイントになる学びのプロセス

単元や活動の中で「政治的教養を育む教育」の身に付けさせたい力の視点である「学びのプロセス《大切にしたい学習活動》」で特に単元や活動でねらいに迫る学習活動となるものを示しています。

ポイント

単元のポイントとなる点を **ポイント** で示しています。詳しい解説や授業の展開例は右側のページに示しています。

政治的教養を育むためのポイント

左側のページで示した学習活動や活動の流れのポイントの詳しい解説をしています。ポイント1やポイント2は左側のページの学習活動の欄のものと同様です。

取り上げた教科や領域によってポイントは学習活動であったり、授業展開例であったりしています。

また、ポイントとして取り上げていなくても、単元を学習する際におさえておきたい箇所を解説している項目もあります。

授業展開例での凡例

T：教員

C：児童

S：生徒

【指導例を使った授業の様子】



小学校：児童の意見をまとめた板書



中学校：他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する場面

6-1 小学校 1年生生活科 指導事例 「かぞくだいすき だいさくせん！」（家族と生活）

【単元目標】

家族生活を支えている家族のことが分かり、その一員としての自分ができることを考えたり、工夫したりすることができるようにする。

【目指す子どもの姿】

家族の一員として自分ができることを考え、その役割を積極的に果たす姿

1 本単元の流れと「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

学 習 活 動（全12時間+常時活動）	ポイントになる学びのプロセス
<p>おうちのひとがしていることは？</p> <ul style="list-style-type: none"> 友だちとの普段の話題の中から、おうちの人がしていること（家事）に興味をもつ。 家事についての友だちとの話から、そこに違いがあることに気づき、本当にそうなのか調べてみようという興味をもつ。 	<p>ポイント1</p> <p>関心をもつ</p>
<p>おうちのひとがしていることをウォッチングしよう！（常時活動）</p> <ul style="list-style-type: none"> 家事にはどのようなものがあるのか一週間調べる。 	
<p>ウォッチングどうだった？</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べた結果を友だちと交流する中で、必ずある仕事と、そうでない仕事があることに気付く。 同じ仕事の中にも、家によってやり方に違いがあることに気付く。 	<p>主体的に行動する</p>
<p>ひみつをさぐれ！～もういちどウォッチング（常時活動）</p> <ul style="list-style-type: none"> 仕事の内容に注目し、上手にするための秘密を観察したり、インタビューしたりして、一週間調べる。 	
<p>こんなひみつをみつけたぞ？</p> <ul style="list-style-type: none"> 見つけた秘密を友だちと交流する。 秘密を知り、自分にもできるかもしれないという気持ちをもつ。 	
<p>やってみよう！おうちのしごと（常時活動+）</p> <ul style="list-style-type: none"> おうちの人に教えてもらいながら、少しずつ自分の力だけでおうちのしごとをやる。 毎日の取組の様子を友だちと交流する。 交流する中でもっと上手にできる方法に気づき、おうちのしごとに活かしていく。 	
<p>これからも！かぞくだいすきだいさくせん</p> <ul style="list-style-type: none"> 家族からのお手紙をもらう。 自分ができるようになったことについて友だちと交流する。 これからも家族のため、自分のためにおうちのしごとをしていこうとする。 	<p>ポイント2</p>

6-2 小学校 2年生生活科 指導事例 「大すき わたしのまち」

(地域と生活、
公共物や公共施設の利用)

【単元目標】

自分たちの生活は地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。

【目指す子どもの姿】

公共物や公共施設を利用する中で、公共の意識を高めている姿

1 本単元の流れと「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

学 習 活 動 (全 16 時 間)	ポイントになる学びのプロセス
前のまちたんけんを思い出す ・まちに関する話題から、春に行ったまちたんけんで見つけたものや出会った人のことを思い出す。	
もう一度行ってみたいところ、会いたい人を考える ・その場所やその人たちが今、どんな様子か、どんなことをしているのかを想起し、まちたんけんへの気持ちをもつ。 ・みんなが共通に行く場所として地域の図書館を紹介する ・まちたんけんの計画を立てる。	ポイント1 課題に気付く
まちたんけんに行こう1～図書館ってどんなところ？ ・地域の図書館を訪問し、館内の様子やそこで働く人たちの様子を観察したり、話を聞いたりする。 ・気付いたことを共有し、ワークシートにまとめる。 ・次のまちたんけんの計画を立てる(グループごと)。	ポイント2 多面的・多角的に考える
まちたんけんに行こう2～私のお気に入りの場所へ ・お気に入りの場所にグループで出かけ、その様子や、そこにいる人、働く人たちの様子を観察する。 ・気付いたことをワークシートにまとめる。	
「大すき わたしのまち」発表会に向けて ・見つけたまちの秘密を友だちと共有する。 ・まちの秘密を知り、まちのために何か自分にもできるかもしれないという気持ちをもつ。	
「大すき わたしのまち」発表会 ・自分のお気に入りの場所を発表し、友だちのお気に入りの場所のよさを知る。 ・発表を振り返り、これからもまちと関わっていこうとする気持ちをもつ。	

2 政治的教養を育むためのポイント

ポイント1

「まちたんけん」にあたっては、地域の人々や場所に親しみや愛着をもてることを目指していきましょう。

生活科の内容（3）「地域と生活」では、児童の生活の場の広がりを背景に、地域に出かけることで、様々な人々や場所との出会いをつくり、それらに心を寄せ、自分の生活との関わりを更に広げたり深めたりすることが期待されています。

指導事例は、春に探検したことを思い出しながら、再びその場所や人の所に行ってみたいという児童の願いから単元が始まっています。年間の中でも、単元の中でも繰り返し地域に出て、そして効果的に振り返ることで、気付きが増え、それが児童のまちへの親しみや愛着へと高まっています。

この地域の人々や場所への親しみや愛着は、これまで以上に地域のことに對して、「もっと知りたい」「もっと親しくなりたい」「自分にもできることをしてみたい」という思いや願いを生むことでしょう。このことは小学校低学年において育むべき政治的教養として大切なことです。

ポイント2

地域の公共施設と関わることで、みんなで使うものは、自分にとっても、相手にとっても気持ちよく利用することに気付くようにしましょう。

この指導事例では内容（3）に内容（4）の公共物や公共施設の利用を組み合わせています。社会において、他者と共生していくことは重要なことであり、自分以外の人のことを考えて行動することは政治的教養を育むうえで大切です。本指導事例では図書館を取り上げていますが、その他にも以下のような公共施設や公共物が考えられます。

身近な公共施設：公園、児童館、公民館、博物館、美術館、駅など

身近な公共物：乗り物、公園のベンチや遊具、トイレ、ごみ箱、図書館や児童館の本など

上記のような公共施設や公共物を意識するとともに、これらのものを支えている人々にも目を向け、その人と関わることにより、「みんなのものを大切にしよう」という児童の気持ちは高まっていくことでしょう。

そして、このことが「みんなで使うものは、自分にとっても、相手にとっても気持ちよく利用して生活するものである」という公共の意識の高まりにつながっていきます。



6-3 小学校 2年生生活科 指導事例 「あしたヘダッシュ!大きくなったわたし」(自分の成長)

【単元目標】

自分自身の成長を振り返り、多くの人々の支えによってできるようになったことが増えてきたことが分かり、周囲の人への感謝とともに、これからの生活に意欲をもつことができるようにする。

【目指す子どもの姿】

周囲の人々から聞いた話などを基にして、自分の成長をまとめる中で自己肯定感を高める姿

1 本単元の流れと「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

学 習 活 動 (全 13 時間+常時活動)	ポイントになる学びのプロセス
<p>前の自分と今の自分を比べてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 最近できるようになったことの交流をきっかけに、今までの変化について調べていくことを共有する。 小さい頃使ったものや写真などを収集する。 小さい頃使ったものや写真などから、今の自分との違いに気付く。 	
<p>こんなことができるようになった私</p> <ul style="list-style-type: none"> 昔の自分と今の自分を比べることで、成長したところ、できるようになったことを考える。 小さい頃のことをもっと詳しく調べるための方法を考える。 <p style="text-align: right;">ポイント1</p>	
<p>私の成長インタビュー大作戦(常時活動+)</p> <ul style="list-style-type: none"> 家族、親戚、地域の人、先生、クラスの友だちなど、身近な人に自分の成長についてインタビューする。 インタビューしたことをワークシートにまとめる。 	<p>情報を収集する</p>
<p>私の成長ポスターをつくろう</p> <ul style="list-style-type: none"> インタビューしたことをもとにして、自分の成長をポスターにまとめる。 <p style="text-align: right;">ポイント2</p>	<p>多角的に考える</p>
<p>私のポスター交流会</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の作ったポスターを紹介し合う。ミニカードに感想を書き、友だちからもらったものは成長ポスターに貼る。 	
<p>3年生に向けて あしたヘダッシュ!</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元のまとめと2年間の生活科のまとめを行い、3年生でやってみたいことを交流し、新学年への思いをふくらませていく。 	

2 政治的教養の育成につながるポイント

ポイント1

これまでの生活科学習を振り返る中で、インタビューの対象者には多様な人たちがいることに気付いていけるようにしましょう。

自分自身の生活や成長に関するこの内容（9）の学習は、自分の成長を実感するもので、自立への基礎を養う生活科において特に重要な学習となります。

昔の自分のことを知る手段として、幼いころに使っていたものに触れることはもちろんですが、その時にどんな生活をしていたのかを知るためには、やはりこれまで関わってきた方へのインタビューが有効です。家族は何度も繰り返しインタビューできることから、対象としてふさわしいですが、その他にも親戚や幼稚園や保育所の先生、これまでの生活科の学習で関わった地域の人たちも対象に含めていくと、多様な情報が集まり、そこから多面的に考えるきっかけが生まれてきます。

なお、この活動は児童の誕生や生育に関わる事柄を扱います。たくさんの情報が集められてくるとは思いますが、プライバシーの保護には十分留意し、それぞれの家庭の事情、特に成育歴や家族構成などにも十分配慮しましょう。



ポイント2

自分の成長をまとめた「成長ポスター」には、多様な情報が入っているように指導しましょう。

集めた情報を低学年の児童なりに取捨選択しながら、自分の成長に関わるお気に入りの事柄をポスター等にまとめていきます。例えば模造紙など大きめの紙に今の自分を絵で描き、その周りに自分の成長に関わる事柄をかき入れていくような形もいいでしょう。インタビューした内容を自分で書き入れてもいいですし、もらった手紙、友だちからのメッセージ等を直接貼るという方法も考えられます。多様な情報がそこにあることで、多角的に自分のことを振り返られるよう、支援していくことが大切になります。

いずれにしても、そのポスターを見ることで、自分の成長やできるようになったことが一目で分かり、また自分の成長にあたっては、家族をはじめ、ここまでたくさんの人との関わりがあったことがうかがい知れることが大切になってきます。そしてこのことをとおして自分の成長を実感し、これからの生活に思いをふくらますことができるようにしていきましょう。

7-1 小学校 3年生社会科 指導事例 「変わり麺を考え、提案しよう」 (生産)

【単元目標】

地域の人々の生産について、次のことを見学したり調査したりして調べ、それらの仕事に携わっている人々の苦勞を考えるようにする。

ア 地域には生産に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていること

イ 地域の人々の生産に見られる仕事の特色及び国内の他地域などとの関わり

【目指す子どもの姿】

学習したこと(生産者の苦勞や工夫)をもとにして、自分の考えを再構築し、表明する姿

1 本単元の流れと「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

学 習 活 動 (全 13 時 間)	ポイントになる学びのプロセス
<p>A社はどうやって麺を作っているのかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 麺作り体験をする。 C：麺作りをしてとても大変だった。 C：麺を細く切るのが難しかった。どうやって切っているのかな。 ・ 麺作り体験の結果と資料を比較し、学習課題を設定する C：僕たち5人分するのに2時間もかかった。きっと工場ではたくさんの方が働いていて、みんなで協力して作っているんだと思う。 C：いや、機械で作っているんじゃないかな？ 	
<p>A社へ行ってみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A社を見学する ・ 工場見学をして分かったことをまとめる 	
<p>A社は、なぜ変わった麺を作るのかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 工場見学をして分かったこと、考えたことを話し合う中で、新たな学習課題を設定する。 C：社長さんが大根の葉を使った麺やかじめ(コンブの一種)をねりこんだ麺について話していたけど... C：他の市や大きなデパートで売っているのは見たことがないなあ。 C：東京の方の駅にあるそば屋さんの麺になっているみたいだよ。 C：なんでそんな麺を作るのかな？ ・ 工場を再び訪れる等の調査活動を行い、A社が変わり麺作りに取り組む理由を追究する。 ・ クラスで話し合い、変わり麺作りに取り組むA社の工夫・思いについて考える。 	<p>ポイント1、2</p>
<p>まちの特色を宣伝する変わり麺を考え、A社に提案しよう (授業展開例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学区や市(町村)の学習で学んだこと等を生かし、まちの特色を宣伝する変わり麺を考える。 ・ 自分達で考えた変わり麺のアイデアをA社に提案する。 ・ 単元の振り返りをする 	<p>自分の考えをもつ</p> <p>自分自身を振り返る</p>

社会科（3～4年生）における「政治的教養を育む教育」につながる授業展開例

T 「今日の授業は、前回の授業で一人ひとり考えた変わり麺のアイデアをグループ内で発表します。なぜその麺にしたかという理由を話しながら発表してください。発表の後、質問したいことがあれば質問しましょう。それでは、始めてください。」

（グループ活動）

C 1 「ぼくはマグロ麺を考えました。やっぱり僕たちのまちと言えばマグロだから、マグロの身を麺に入れたらおもしろいと思ったからです。」

C 2 「Aちゃんに質問なんだけど、マグロの身をどうやって麺に入れるの？」

C 1 「マグロの身をミキサーかなんかで小さくしたらできるんじゃない。A社の社長さんも大根の葉を使った麺を作る時、そうやったって言っていたよ」

C 2 「でもさ、大根の葉を使った麺はにおいがあまりしなかったけど、マグロ麺だと魚の生臭さが残るんじゃないかな。においはどうするの？」

ポイント1

C 1 「う～ん。」

C 3 「じゃ、そのことはまた後で考えればいいんじゃない。」

ポイント2

（後略）

T 「時間になりました。グループ内での発表を終わってください。今から、それぞれのアイデアをもう一度考え直します。友だちから質問されたことに答えられるように理由を考えましょう。また、その変わり麺を本当に作れるようにするためにはどうしたらよいかについても、学習したことを思い出しながら考えましょう。」

（後略）

2 政治的教養を育むためのポイント

ポイント1

友だちのアイデアを肯定的に受け止めることを意識させながら活動を進めましょう。

お互いにアイデアを発表する際には、友だちのアイデアを肯定的に受け止めるよう指導しましょう。また、質問に答えられない場合の対処に仕方についても事前に指導しておき、グループの話し合い活動や人間関係をよりよく構築できるようにしていきましょう。

ポイント2

当事者の思いを共感的に理解させましょう。

変わり麺を作っている工場であれば、変わり麺を生産するようになるまでに多くの失敗や工夫・改善があります。地域の生産活動に携わっている人々の苦労や工夫について学習したことを振り返らせる必要があります。当事者の思いを共感的に理解することは社会的事象を自分のことに引き寄せることにつながり、かつ社会参画の意識を醸成していくこととなります。

7-2 小学校 5年生社会科 指導事例 「森林とわたしたちの暮らし」 (森林資源の働き)

【単元目標】

国土の保全などのための森林資源の働きについて調べ、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考えるようにする。

【目指す子ども姿】

社会的事象に携わる当事者の思いについて多角的に考え、自分の考えを再構築し、表明する姿

1 本単元の流れと「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

学 習 活 動 (全 11 時 間)	ポイントになる学びのプロセス
<p>森にはどんな働きがあるのかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林資源の働きについて知る。 ・森林資源の育成に従事している人々がいることを知る。 <p>森へ調べに行こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林保全ボランティアをしている人と出会い、ボランティア活動について知る。 <p>自分だったらボランティアできるだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林保全ボランティアの活動を続ける人の思いを予想する。 <p>C：森について説明してくれたAさんは、ボランティアで保全活動をやっているって言っていました。そのことで考えたんだけど、なぜAさんはボランティアをやろうと思ったのかな。</p> <p>C：僕は暑いのが苦手だから、僕だったらボランティアはできない。</p> <p>C：Aさんは、なぜそこまでしてボランティアをするのかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経験をもとに自分なりの考えをもつ。 <p>Aさんは、なぜそこまでして森林保全ボランティアをするのだろうか？ (授業展開例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料を根拠にクラスで話し合い、森林保全ボランティアの方の願いや思いを知る。 ・友だちの考えや当事者の思いにふれることを通し、森林保全の意義について考えを深めていく。 <p>森を保全していくにはどうしたらよいのだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを生かし、これから自分(自分たち)ができることを考える。 <p>C：Aさんみたいにボランティアをするまでにはいかないけど、森や自然環境について興味関心をもつことぐらいだったらできそう。</p> <p>C：Aさんは、子どもの頃に自然の中でたくさん遊ぶことが大切だって言っていた。それぐらいだったらできそう。将来、僕たちが大人になった時保全活動してみようという気持ちに変わるかもしれない。 ・単元の振り返りをする。 </p>	<p>ポイント</p> <p>自分の考えを再構築する</p>

社会科（５～６年生）における「政治的教養を育む教育」につながる授業展開例

- T 「それでは、今日は前々回の授業でみんなが問題にした『Aさんは、なぜそこまでして森林保全ボランティアをするのだろうか？』について、話し合います。それぞれ調べたことや学習したことを生かして考えたことを発言してください。」
- C 「ぼくは他のボランティアの人に聞いたんだけど、小網代の森（ ）は関東地方でもとても貴重な森だと言っていたから、貴重なものをずっと残していきたいと考え、大変なボランティアを続けているんだと思います。」
- C 「わたしも同じ意見で、自分だったら夏の暑い時に森の手入れをするボランティアの仕事はとてもできないと思う。やっぱり貴重だから残したいという強い思いがあるから、ボランティアを続けているんだと思う。」
- C 「ぼくはちょっと違う意見なんだけど...。小網代の森は、社会科で勉強したけど、最近観光地になっているじゃない。観光客に喜んでもらうためにやっているんじゃないかな。じゃないと、とてもボランティアは続けられないよ。」
- C 「あの...、みんなとちょっと違う意見なんだけど。わたしは、Aさんは、本当に森が好きなんだと思う。Aさんに会った時、Aさんが子どもの頃森で遊んだ話を楽しそうに話してくれたじゃない。あの時のAさんの顔を思い出して考えたんだけど、Aさんは純粋に森が好きで、難しいことを考えるよりも森のために何かできることはないかと思ってボランティアをしているんだと思う。」
- （中略）
- T 「たくさん考えが出ましたね。実はAさんに話を聞いてきました。これから、Aさんの思いをVTRで流します。Aさんの話を聞いてみましょう。」
- （後略）

ポイント

2 政治的教養を育むためのポイント

ポイント

当事者の思いをじっくりと考え、話し合う時間を設けましょう

社会に参画しようとする気持ちを育むためには、当事者の思いを知ることが大切です。上述のように、当事者の思いをじっくりと考え、話し合う時間を設けましょう。この過程を経ることで、当事者の思いが児童に伝わりやすくなります。

また、話の聞かせ方には「直接聞く」「VTRを視聴する」「インタビューした内容を文字化し、資料として配付する」など様々な方法があります。児童の実態に合わせ、方法を選択しましょう。

（ ）小網代の森...神奈川県三浦市にある森林。源流から海まで自然の生態系が連なる森林は、関東地方では唯一の場所である。開発計画の頓挫、ボランティア活動による森林の復元等の歴史をもつ。神奈川県では自然環境の保全・再生を進めている。

7-3 小学校 5年生社会科 指導事例 「わたしたちの食生活と食料生産」(食料生産の様子)

【単元目標】

- ・我が国の食生活を支える食料の中には、外国から輸入しているものが多いことに気付き、それらが国民の食生活を確保するために重要な役割を果たしていることを考えるようにする。
- ・我が国の食料自給率が低い要因について、話し合ったり資料を活用して調べたりすることとおして、食料生産の問題点を見出し、我が国の将来的な食料生産のあり方について考えるようにする。

【目指す子どもの姿】

課題の解決に向け、調べたことを根拠にしながら自分なりの考えをもって思いを表現する姿

1 本単元の流れと「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

学 習 活 動 (全4時間)	ポイントになる学びのプロセス
<p>普段食べている食料はどこからやってくるの? (授業展開例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な食料の生産地を調べる活動をとおして、学習問題を設定する。 C: 豚肉や鶏肉は、九州産が多い。野菜類は北海道や東北が多い。 C: 種類によっては外国産のものも多い。魚介類は意外と外国産が多い。 C: 日本は食料自給率が低い! なぜ外国産が多いのだろう? <p>なぜ、日本は食料自給率が低いのだろう?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の食料自給率が低い要因について、資料や調べたことから考える。 C: 日本は耕地面積が小さいことが理由の1つだと思う。 C: 他にもパン食などの食生活の変化で自給率が低くなってきたんだね。 C: 国産のものは、値段が高いのはなぜだろう? C: 安いものの方が売れるはずなのに... <p>国産品は高いのに、わざわざ買うのはどうしてだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国産と外国産の商品を比べ、それぞれの特徴について考える。 C: 国産のものは品質基準や検査項目が多い。だから安全。 C: 日本は、化学肥料に頼らないものづくりで安全を大事にしている。 C: 日本の農家は、手間をかけて野菜を生産している。人件費もかかる。 C: 一方、外国産は大量生産。コストが削減できるから安い。 C: 外国産の安い商品ばかり流通してしまうと... <p>これからの生活で、私たちができることは何だろう?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食生活についてこれから自分たちでできることを考える。 C: 輸入に頼らなければいけない食料もある。でも、国産のものを大切にしないといけない部分もある。 C: でも、輸入にばかり頼ってはいけない。だからと言って、外国との関わりをなくしてはいけない。バランスも大事なのかなと思う。 C: 安全なものかどうかしっかり考えて買い物をしなければいけない。 C: 環境のことを考えた買い物も大事だよ。「フードマイレージ」を考えて購入してみるようにおうちの人と相談してみる。 C: 資料を見ると世界には、貧困に困っている国がたくさんある。それなのに日本は無駄も多い。外食への偏りや食べ残し問題など、できる限り無駄もなくすることも考えなければいけない。 	<p>ポイント1</p> <p>課題に気付く</p> <p>ポイント2</p> <p>自分の考えを再構築する</p>

2 政治的教養を育むためのポイント

社会科（5年生）における「政治的教養を育む教育」につながる授業展開例

（第1時）事前に児童一人ひとりに食品ラベル（産地や値段等が明記されたもの）を集めるように声をかけておく。

T：地図に食品ラベルを貼ってみましょう。

C：（持ち寄った食品ラベルを産地ごとに貼る）

C：肉類は、九州地方が多い！特に鶏肉や豚肉。野菜は、首都圏近郊の産地が多いね。

C：あれ？どうしよう…。（日本）地図に貼れない。

T： **さんと同様、貼れずに困っている人は？**

C：肉も野菜も外国産の方が安いから、みんなたくさん（外国産の商品）買っているね。

C：日本は、たくさんの食料を外国に頼っている。

C：そうそう、食料自給率が低い。食料全体の3割しかない。

C：え？ほとんど外国のもの？なぜ低いのかな？

自分たちで集めたラベルを地図に貼る活動をとおして、オリジナルの資料が仕上がります。そうすることで、自然に分析が始まり、児童は気付いたことを呟いたり友だちと話し合ったりしていきます。日本地図を中心に用意することで、あえて外国産の多い事に着目させることも手立ての一つです。

教師は、児童の「なぜだろう？」という問いをクラス全体に広げたり共有したりすることで、次の授業時間の学習問題を整理していきましょう。

ポイント1

児童の主体的な学びを実現するためには、追究したい「問い」を引き出すことが大切です。そのためには、児童の実態に合わせた教材選び、単元構想に努めることが大切です。

身の周りの生活の中には、児童にとって新たな発見、予想や想像をくつがえし驚きを感じるような社会的事象がたくさんあります。「え？今まで知らなかった…。」「あれ？思っていた結果と違う…。」という思考の違いを与える学習材との出会いが、単元導入時では大切です。目の前の児童が、「なぜ？」「どのように？」という「問い」を感じ、「知りたい！」や「調べたい！」という思いをもつことができる導入に心がけましょう。

ポイント2

自分なりの考えをもつことを大切にすることを意識させながら学習を進めましょう。

学習問題に対し、一人ひとりがしっかり考えられる時間や調べる時間を確保してあげることも大切な手立てです。授業の終わりでは、問いに対する自分の考えや思いを発言やノートに表現することで、自分の問題として感じることができるようにしましょう。また、問いを解決するために、自分の考えの根拠となる資料を調べたり、その資料を活用しながら表現したりする時間も積極的に単元に取り入れていきましょう。

7-4 小学校 5年生社会科 指導事例

「自然災害とともに生きるわたしたち」(自然災害の防止)

【単元目標】

- ・我が国では、たくさんの自然災害が起こっていることに気付き、その災害を防ぐために県や市などによって、たくさんの工夫や努力がなされていることを考えるようにする。
- ・自分自身ができる防災を考えることで、よりよい防災のあり方や考え方を日ごろから意識して生活することの大切さに気付く。

【目指す子どもの姿】

調べたことや経験をもとにして、自分の考えを進んで表現する姿。他者の考えを聞き、自分の考えを改めて考え直したり、新たな考えを見つけたりする姿

1 本単元の流れと「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

学 習 活 動 (全4時間)	ポイントになる学びのプロセス
<p>日本は、災害がとても多い？</p> <p>・日本で自然災害が多い理由を考える中で、学習問題を見つける。</p> <p>C：資料を見ると、たくさんの地域で災害が起こっている。</p> <p>C：地震は、とても多いよね！この間もあったよね…。</p> <p>C：地震だけでなく台風や土砂崩れもあるね。地域によって大雪も！</p> <p>C：日本各地で災害が起きている。怖い…。災害を防げないのかな？</p> <p>C：災害は防げないよ。だって自然の力だもん。</p> <p>T：じゃあわたしたちは何もできないのだろうか？</p> <p>C：いや、何か対策を考えることができるよ。</p>	<p>ポイント1</p>
<p>自然災害から身を守るにはどうすればよいのだろうか？</p> <p>・自然災害に向けた対策にはどのようなものがあるのか話し合う。</p> <p>C：台風や土砂災害は、気象予報で未然に確認することができる。</p> <p>C：地震なら、緊急地震速報がある。大きな地震の前に知らせてくれる。</p> <p>C：大雪の地方や大波がくる地域は、未然に対策しているんだよ。</p> <p>C：例えば、融雪溝とか堤防とか…。</p> <p>T：わたしたちは、何か対策しているのか考えてみよう。</p> <p>C：地震のことなら考えることができそうだな。</p>	<p>ポイント2</p>
<p>大地震に備え、わたしたちができることは？ (授業展開例)</p> <p>・地震に備えて、できることを一人ひとりが考える。</p> <p>C：避難用のリュックサックを用意しているよ。</p> <p>C：飲料水や非常食、懐中電灯、携帯ラジオなど。</p> <p>T：これで準備は大丈夫なのかな？</p> <p>例えば、家に一人でいるとき、地震が起きたら自分で行動できる？</p>	<p>自分の考えを 再構築する</p>
<p>友だちの考えを聞いたうえで、考えをまとめよう</p> <p>・学習を振り返り、自分の考えをまとめる。</p> <p>C：どこに逃げればよいか分かってないな。どうすればいいのかな？</p> <p>C：自分たちの住んでいる地域は、それぞれ違う。だから、自分のまちの地形や避難する場所をちゃんと確認しておくことが大事だと思った。</p> <p>C：私は、やっぱり地域の関わりも大切だと気付いた。</p> <p>C：もっと地域の行事とか参加してみようかな？</p>	

写真や映像など具体的な資料を活用して、児童が社会事象に興味・関心をもてるような提示をしましょう。

児童が社会的事象を身近に感じるために、写真や映像などの補助資料を有効に活用しましょう。見たことや経験したことがないものでも、事実を確認しやすくなります。例えば、津波被害の様子を児童に伝えたいときに、実際の東日本大震災の映像を活用したり、防潮堤の高さを校舎の大きさに見立てたりすると、実際の被害の大きさが実感できるようになります。災害資料の中には人の生死にかかわるようなものもあるため、児童の実態に合わせて精選しなければいけませんが、意識的な資料提示により子どもの思考が深まったり切実感をもって授業に臨んだりすることができるように工夫しましょう。

学習課題に対し、教師も児童とともに考える姿勢をもって授業に臨みましょう。

問題解決学習では、児童の主体的で対話的な学習の展開が期待できます。しかし、学習の展開を単に児童任せにするのではなく、児童の発言の真意に迫るよう教師が問い返しをしたり、新たな話題提起をしたりすることで児童が思考できる時間にしましょう。

学習展開例（第3時）

T：今日の学習は「大地震に備え、わたしたちができることって何だろう？」ですね。

C：僕のうちでは、避難するときのためにリュックサックを用意しているよ。

飲料水や非常食、懐中電灯、携帯ラジオなどが入っているよ。

C：私の家では、非常食や飲み水を家族が1週間過ごせる分くらい貯めているよ！

C：どの位の量なの？

C：5人家族で、水だと100L！

C：えー！？そんなに必要なの？私たちは結構水を使っているんだな...

T：準備するものってたくさんあるんだね！だんだん必要なものが見えてきたね。**みんなこんなに準備できているなら、いつ地震が起きても一人で逃げられるね？**

C：いや...。それは...

C：一人でいるときに地震がくるのは、心配...

T：何が心配？

C：家族と会えるかなとか、無事かなとか...。どこに逃げればいいのか約束はしているけど、実際に一人で行ったことがないな...

T：みんなはどう？

C：うん...。（ざわざわ...。隣同士で話し合いが始まる）

T：じゃあ改めて、一人でも大丈夫なように「大地震に備え、わたしたちにできることは何か？」を考えてみよう。

.....

C：僕は、ハザードマップを信じて逃げる道をしっかり知ることが必要だと思う。

C：私は、もっと地域の道路や高台とか知っておくことも必要かなと思う。

7-5 小学校 6年生社会科 指導事例

「古代ヘタイムスリップ! あなたならどちらを選ぶ?」

【単元目標】

- ・狩猟・採集や農耕の生活について調べ、それぞれの時代や生活の特徴を分かるようにする。
- ・長い時間をかけ、次第に人々の生活が変化していく様子を理解し、国の形成について関心をもつ。

【目指す子どもの姿】

- ・二つの時代の人々のくらしぶりを比較しながら、自分なりの視点を明確にして考えをもつ姿
- ・自他の考えを比べることを通して、自分の考えを広げたり深めたりする姿

1 本単元の流れと「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

学 習 活 動 (全4時間)	ポイントになる学びのプロセス
<p>ここはどこ? どんな時代?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縄文時代の人々のくらしを現代と比較して考える。 <p>C: 狩猟をしていた時代。獲物を狩る。木の実を集める。</p> <p>C: 服装も住まい方も違うね。</p> <p>C: 縄文人は、現代人と比べて背も低いし、寿命もかなり短い。</p> <p>C: どうしてだろう? 衣食住と何か関係があるのかな?</p> <p>縄文人は、どのような生活をしていたのだろう?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたことから縄文時代の生活の仕方をまとめる。 <p>C: 狩りには槍などの道具を持って行った。女性は家の周りで採集して</p> <p>る。</p> <p>C: 大きな獲物は、みんなで分け合って食べていた。</p> <p>C: 木の実など硬いものは、土器で煮炊きして食べた。火を使っていた。</p> <p>C: 主食がない...。栄養が少なかったから寿命が短かったのかも...</p> <p>C: 次の弥生時代と何が違うのかな?</p> <p>弥生時代の人々は、どのような生活していたのだろう?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弥生時代の人々のくらしを縄文時代と比較しながら考える。 <p>C: この時代から米作りが中心になったんだね。</p> <p>C: 安定した食料が手に入るようになった。寿命も少し延びた!</p> <p>C: 移住しなくなった。むらぎできた。指導する人が現われた。</p> <p>C: でも、争いが始まった。土地や水の奪い合い...</p> <p>C: 縄文時代の方が幸せだったかも...</p> <p>C: そうかな? 弥生時代の方がきっとよいはず。</p> <p>生活するならどちらを選ぶ? 縄文時代 or 弥生時代?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの時代を比較しながら、双方のよさを考える。 <p>C: 僕は、縄文時代。狩猟生活はワイルドでかっこいい。</p> <p>C: 私は、弥生時代。何ととっても米が食べられる。安定した生活。</p> <p>C: 奪い合いや貧富の差は嫌だな。</p> <p>C: よいところもあれば...。私はどうしようか悩むな...</p> <p>C: このあと人々のくらしは、どのように変化していったのだろう?</p>	<p>ポイントになる学びのプロセス</p> <p>関心をもつ</p> <p>自分の意思を 決定する</p>

2 政治的教養を育むためのポイント

ポイント1

比較・検討していく中で、自分の意思を決定することを大切にしましょう。

今も昔も「人々の生活」という共通の視点をもとに考えていくと、児童も衣食住という普遍的な視点をもとに当時の人々の生活を考えやすくなります。今回は、「縄文時代と弥生時代」を例に挙げましたが、この他にも、「奈良時代と平安時代の服装や食事の違い」、「江戸時代と明治時代の街並みの変化」など、比較しながら考えられる単元はいくつか挙げられます。

この学習の場合、どちらが正しいかや望ましいかという結論にははいけません。大切なのは、児童一人ひとりが立場や論点を明確にして自分の意思をもつということです。「食事で考えると...」「住まいのことを考えると...」「人との結びつきを考えると...」というように、様々な視点で児童が語っていくことに価値があります。クラスでそれぞれが自分の思いを語り合う中で、他者との考え方に違いが表出され、「どうしてそう思うの?」「こう考えたらどう思う?」というような対話が自然と生まれ、学習問題に主体的に考えていくことができるようになります。たくさんの考え方があってよい、みんな違ってよいという学校や学級の風土も大切にしていきたいでしょう。

ポイント2

事実をもとに考え、判断できる姿勢を身に付けさせましょう。

教師は、歴史的な事実と児童の推測や想像での語りを分けて学習を進めていくとよいでしょう。板書で色分けや囲い込みをして分かりやすくすることも大切な手立てです。

また、資料などを扱う際は、文献等の引用や出典でも明記を忘れないようにすることを児童にも指導することも大切です。そうすると、児童の発言や考えにも、「 さんの考え方」「 さんの意見」というように個別化され、互いの意見が尊重するよう意識されていきます。

8-1 小学校 低学年特別活動（学級活動） 指導事例 「みんながもっと仲良くなるお楽しみ集会を考えよう」

【目標】

- ・学級活動（話し合い活動）の役割について理解することができるようにする。
- ・自分の意見を考え、伝えたり、受け止めたりすることができるようにする。

【目指す子どもの姿】

クラスの一員として自分ができることを考え、意思決定し、その役割を積極的に果たす姿

1 活動の流れと「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

主 な 活 動	ポイントになる学びのプロセス
【事前の指導・児童の活動】 自分の役割を理解し、会に向けた準備を行う <ul style="list-style-type: none"> ・学級会に向けて議長団の役割を理解する。 ・議長団の役割分担を行う。 ・構成員は自分の意見を考え、発表できるようにする。 	
【話し合い】 自分の役割を理解し、進んで話し合いに参加する <ul style="list-style-type: none"> ・議長団は自分の役割を理解して、議題にそって話し合いを進める。 ・構成員は議題に沿って、友だちの考えを聞いたり、自分の意見を伝える。 	
集会活動の展開例 1 はじめの言葉（司会） 2 歌（歌係） リラックスし、楽しい雰囲気を作るために歌をみんなで歌う。 3 題材と提案理由の確認（提案者） <div style="text-align: right;">ポイント1</div>	課題に気付く
4 話し合い <div style="text-align: right;">ポイント2</div> 柱1（20分） 「ゲームの内容を話し合う」 ・仲良くなるためのゲームを話し合う。 柱2（10分） ・必要な役割を出し、役割分担を行う。 時間によっては出し合うまでで終わる	
5 決まったことの発表（書記） ・話し合いで決まったことを発表する。 6 先生の話 7 終わりの言葉	合意形成し、 自分の意思を決定する
【事後の指導・児童の活動】 お楽しみ集会に向けた準備と当日 <ul style="list-style-type: none"> ・役割分担をし、準備を行う。 ・約束を守り、お楽しみ集会に参加する。 ・集会終了後、感想を発表する。 <div style="text-align: right;">ポイント3</div>	自分自身を振り返る

2 政治的教養を育むためのポイント

ポイント1

学級活動として行う集会活動は、休み時間の遊びとは異なります。単に楽しいことをやればよいのではなく、めざす学級像の具体化など、目的意識をもてるようにします。

- ・何を目標として行うのか、準備から実行、振り返りまでの活動全体を見通して、「提案理由」や「めあて」を考えることができるようにします。
- ・低学年の段階においては、楽しい集会活動を多く経験できるようにすることが大切です。その中で、集会活動では、楽しく充実した学校生活につながることを理解させ、話し合いや実践への期待感をもたせるようにします。

ポイント2

集会活動では、誰もが何かで貢献できるようにします。役割を受けもつことで、責任感や満足感が得られることにつながります。

- ・多様な役割を用意したり、交替で行ったりして、できるだけ全員がリーダーを経験できるようにすることも大切です。効果的な実施のために、教師はそれぞれの活動を見守りアドバイスします。低学年であれば一人一役で受けもつなどの工夫も必要です。また時間の確保とともに、児童に任せることができない事項も明確にしておきます。
- 【話し合い】1年生では、初めは担任が中心となって進めますが、進行の役割として司会や、黒板の係、決まったことを発表する係など、教師と一緒にやりながら自分たちで運営していくように、児童に簡単な役割を任せていきます。
- 【役割分担】「できる・できない」で考えるのではなく、未経験者でも希望を生かせるようにします。例えば、集会活動の司会役の希望者が多かった場合、できるだけ希望を生かすようにします。

ポイント3

集会活動の充実のためには、話し合い、準備、集会活動などの全体について振り返りを大切にします。

「この集会活動のねらいが達成できたか」「自分はどうに取り組んだか」を振り返らせ、反省点を明らかにし、感想や振り返りを掲示することで、次回への意欲付けとなり、「この次も楽しい集会活動しよう」という意識が高まります。

また、集会活動のプログラムの中に感想発表として入れることもできます。

「計画を立てる 実行する 振り返る」のサイクルを大切に、次への活動に生かすようにします。

そのためにも、集会活動の実践後、振り返る場を設定し、自分自身の頑張りや友だちのよかったところ、協力や創意工夫の大切さを発見できるようにします。

しゅうかい 集会		ふりかえりカード
をつけましょう。↓		
じぶんの やくわりを しっかりと やることができましたか。		
おともだちと なかよく きょうりよく することが できましたか。		
おともだちの よいところや がんばったところを 見つけられましたか。		
そのほかに できたことや うれしかったことなどを かきましょ。		

振り返りシートの例

8-2 小学校 中学年特別活動（学級活動） 指導事例 「クラス集会をしよう」

【目標】

- ・児童が、自分達の学級の生活をより楽しくするために、必要のある議題を見つけ、学級会による話し合いを通して、活動を学級集団で決定する。
- ・役割を分担し、協力して活動することにより、学級集団の力を育てていく。

【目指す子どもの姿】

学級集団の生活で必要なことを考えて合意形成し、それぞれが役割に合わせて主体的に行動する姿

1 活動の流れと「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

主 な 活 動	ポイントになる学びのプロセス
<p>【事前の指導・児童の活動】</p> <p>議題を収集し、計画委員会を開催する ポイント1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議題ポストや朝の会・帰りの会等を活用して話し合いの議題を集める。 ・計画委員会を開催し、学級会で話し合う議題を選定する。 ・学級会の計画を児童と一緒に作成する。 ・司会、記録等の役割を決める。 <p>【話し合い】</p> <p>学級会で話し合い、集会での役割を分担する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議題について話し合い、クラス全員で合意形成する。 自分たちで決めたことは、協力しあって実践する。 ・話し合いの3つ段階 「出し合う」「比べ合う」「まとめる」 ・学級会で決まった活動に必要な役割を、学級全員で分担する。 ・分担ごとにクラス集会の準備を行う。 <p>【活動する】</p> <p>クラス集会を開く ポイント2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで決めた計画にそって、集会を行う。 ・集会が終わったら、学級全員で片づけを行う。 <p>【事後の振り返り】</p> <p>クラス集会を開き、振り返りを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集会活動により、ねらいが達成できたか振り返る。 ・振り返りカード等を活用することで、話し合いの振り返りだけでなく、活動全体の振り返りを行う。 	<p>情報を収集する</p> <p>自分の意思を決定する</p>

2 政治的教養を育むためのポイント

ポイント1

児童中心の活動を行うために、計画委員会を位置付けるなど、話し合いに向けた準備をしっかりと行います。

- ・学級会での話し合いを児童中心に行うには、活動計画を児童と教師と一緒に作成していくことが大切です。
- ・活動の中に計画委員会をしっかりと位置づけて、話し合う内容を吟味し、適切な議題を選定します。
- ・小学校段階では、すべての児童が活動の流れを経験することが重要です。（計画委員は輪番に）
- ・児童ができることは、段階的に児童に任せていくように考えることも大切です。そのため、年間をとおした見通しをもちましょう。
- ・提案カードを用意して、議題を事前に集めることや、学級の掲示板に、学級会の議案を掲示しておくなど、話し合いを充実させる工夫も効果的です。

ていあんカード	月	日	名前
ていあん者	<input type="checkbox"/> 個人で	<input type="checkbox"/> 係から()	
【ていあんしたいこと】	<input type="checkbox"/> みんなでやってみよう	<input type="checkbox"/> みんなでいっしょにやってみよう	
【ていあんの理由】			
【ていあんなら、】	1 学級会で話し合う	2 たましく	
	2 係にやってみよう	3 こまごまにやってみよう	
	3 集いの会で話し合う	4 やるといっしょに	
	4 先生にまかせる	5 きまめろせ3年1組	

ポイント2

自分達で決めたことを、学級全員で分担して、集会活動に向けた準備を進めていきましょう。

- ・小学校段階において児童に社会参画していく力をつけるには、学級会で合意形成したことを、学級全員で成し遂げていく活動を繰り返して行うことが大切です。
- ・「クラス集会の準備」も大切な集団活動です。学級会で合意形成したことは、決めたままにせず、準備を学級全体で取り組んでいきます。
- ・役割分担は、全員で考えます。また、児童の創意工夫を生かしながら集会活動に向けた準備に取り組むようにします。
- ・自分達の生活をよりよくするために、互いの活動の進み具合や、他の係にお願いしたいことなどを連絡し合う時間を確保することも工夫の一つです。係相互の活動意欲も高めることで、児童がより学級全体を意識し活動することができます。
- ・学級会の時間に余裕がある場合は、1時間の学級会の中で、役割分担まで決めることもできます。限られた時間を有効に使うように心がけます。

8 - 3 小学校 高学年特別活動（児童会活動） 指導事例 「児童の意見や発想を生かした委員会活動」

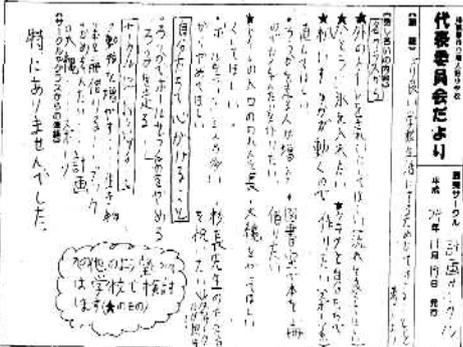
【目標】

- ・児童会活動を通して、望ましい人間関係を築き、学校の一員としてよりよい学校づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。
- ・児童の発意や発想を生かしていく児童会活動を中心にした学校行事への協力を行い、自分たち自ら学校生活をより豊かで楽しいものにしていくことができる。

【目指す子どもの姿】

よりよい学校をつくるために、学校の一員としてその役割を積極的に果たし、他者と話し合いながら、主体的に社会（学校）に参画する姿

1 主な活動と「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

主 な 活 動		ポイントになる学びのプロセス
<h3>児童集会</h3>	<p>児童集会（朝の15分集会）を教師側が各委員会に割り振るのではなく、各委員会が発信したいことを発信したい時期に行えるようにする。</p> <p>各委員会の委員長が会議を行い、児童集会に発信する内容について調整をしていく。</p>	<p>話し合いながら合意形成する</p>
<h3>委員長会議</h3>	<p>月に一度、委員長が集まって話し合い活動を行う。会議は月初めの週に設定し、計画委員長を中心に昼休みを使って話し合う。</p>	
<h3>年に一度のリクエスト特集</h3>	 <p>代表委員会で、年に1回、各学級から委員会へのリクエストをする月を設定する。各クラスからの要望や意見から、自分たちの委員会で企画できそうなものがあるかを担当教諭と話し合い、時期や準備などの調整がつくようであれば、計画を立てて提案をする。</p>	<p>課題に気付く</p>

ポイント1

児童委員会年経計画

月 日	担当S	学校行事・関連事項など	学校生活目標
4月16日		(4月) 入学式・始業式・新任式	(4月) 学校のよさを守り、楽しく生活しよう
5月14日		・サークル決定 ・なかよし学級組合わせ	(5月) 交通ルールを守って、安全に登下校しよう
5月28日		(5月) ・ヘルマーク週間	(6月) 雨の日は室内で静かに遊ぶ
6月11日		・クラブ決定 (6月)	(7月) 力を合わせてきれいな学校にしよう
6月25日		・運動会 ・なかよし遠征 (7月) ・ヘルマーク週間・大掃除週間	
9月17日		(9月)	(9月) 暑さをこめてあいさつしよう
9月24日		・ヘルマーク週間 ・学校へ行く週間	(10月) ろうかや階段は走らないで右側を歩こう
10月 1日		(10月) ・ヘルマーク週間	(11月) 進んで本を読み、読書の楽しさを知ろう
10月15日		・混合音楽会・混合運動会 ・団つき遊	(12月) 力を合わせてきれいな学校にしよう
10月29日		(11月) ・なかよし音楽会	
11月26日		・読書週間 (12月) ・なかよし遠征 ・大掃除週間	
1月14日		(1月) ・ヘルマーク週間	(1・2月) 都合に合わない工夫な体をつくろう
1月28日		・体かづくり (2月)	(3月) 一年間過ごした学校・教室をきれいにしよう
2月25日		・読書週間 (3月)	
3月 4日		・卒業式	

ポイント2

2 政治的教養を育むためのポイント

ポイント1

自治的な活動にするためにも、相手の意見を尊重し、少数意見にも配慮しつつ、話し合いながら合意形成を図っていくことができるようにしましょう。

小学校段階においては、児童が所属する全ての集団が「社会」であり、主体的な関わりや働きかけこそが「参画」することになります。児童一人一人が構成員の一人であることを自覚できるようにしましょう。特別活動では様々な場面で、多くの合意形成がなされます。児童一人一人が、主体的に意思決定を行い、合意形成の過程に関わることが大切です。合意形成のためには、全員が「参画」することが前提となります。

合意形成をしていくためには、司会者の次のような言葉かけも大切になります。

「意見が出尽くしたので、そろそろ決めてもよいですか」

「Aという意見が多いので、Aに決めてもよいですか」

「AとBの意見を合わせて、Cという考えに決めてもよいですか」

「多数決で決めたらよい、という意見が出ましたが多数決としてよいですか」

集団決定する際に、司会者が発言してくれた児童に配慮することが、一人ひとりを大切に作る人間関係を築くことにつながります。教員も、自分の意見に決まらなかった児童に対しては、「よく考えて、いろいろな意見を出してくれたおかげで、よい決定ができましたね」などと、言葉をかけ、認めることも大切です。

ポイント2

児童の実態、活動の経験、興味・関心などを適切にとらえ、教員の適切な指導のもと活動が積極的に展開されるよう工夫することが大切です。また日頃から、よりよい生活づくりへの問題意識を喚起しておくことも大切です。

集まったリクエスト（意見や要望など）の中から、どの議題・題材を選ぶのか、自分たちで話し合えるようにします。学校生活の充実や向上のために、「全校で扱うべき内容かどうか」「自分たちで解決できる問題なのかどうか」など次のような視点で考えられるようにしましょう。

多くの児童が解決を望んでいるもの

学校全体の問題で、全校で協力しなければならないもの

決めたことを自分たちの力で具体的に実行できるもの

創意工夫の余地があるもの

学校生活をよりよくするもの

8 - 4

小学校 高学年特別活動（児童会活動）

指導事例

「代表委員会のあり方を考えよう」

【目標】

児童会活動をとおして、望ましい人間関係を形成し、集団の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。

【目指す子どもの姿】

自分たちの学校生活をよりよいものにするために、自治的、自発的に学校生活の諸問題について話し合い、解決を図っていく姿

1 活動の流れと「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

活 動 の 流 れ	ポイントになる学びのプロセス
<p>議題の収集</p> <ul style="list-style-type: none"> 代表委員会の議題については、各学級から出された諸問題や各委員会の中で、代表委員会にかかわる内容の中から集めます。 議題箱等を用意して、議題を収集することも考えられます。 <p>議題の決定と原案の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童会計画委員会(運営委員会)は、議題の決定、原案の作成を行います。 議題は、限られた時間の中で話し合いを進めるため、焦点化します。例)「意欲的にあいさつすることができるようにする方法について」 <p>学級会等での話し合い</p> <ul style="list-style-type: none"> 原案について各学級等で話し合いをし、学級での意見をまとめます。「朝のあいさつ運動」「ポスター作り」等 <p>話し合いの時間は特別活動の学級活動として取り扱いますが、議題によって1単位時間の必要がないものは、朝の会や帰りの会等の活用も考えられます。</p> <p>代表委員会での話し合い</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童会計画委員会(運営委員会)が司会、黒板書記、ノート書記等を務め、各学級からの意見や考えを尊重しながら、話し合いを進行する。 話し合いについて、良かった点を相互に発表したり振り返りカード等に記入したりする機会をもちましよう。 <p>話し合いの結果報告</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学級の代表委員は、代表委員会での話し合いの様子や結果について、各学級で報告します。 代表委員会だよりの発行や児童朝会、校内放送の時間等を利用して、代表委員会で話し合われたことを全校に報告することも考えられます。 	<p>ポイントになる学びのプロセス</p> <p>ポイント1</p> <p>自発的、自治的活動のための組織</p> <p>ポイント2</p> <p>主体的に社会参画する態度の育成</p>

2 政治的教養を育むためのポイント

ポイント1

自発的、自治的に代表委員会を行うための組織の工夫をしましょう。

代表委員会は、高学年(及び中学年)を中心とした、各学級の代表(代表委員)、各委員会の代表、児童会計画委員(運営委員)によって組織します。また、必要に応じて各クラブの代表や低学年の学級担任等の参加も考えられます。学校規模等の実情に応じて編成する必要があります。

学級の代表(代表委員)は、「学校を盛り上げていきたい」、「学校をよりよくしたい」という**意思を尊重するとともに**、できるだけ多くの児童が参加、経験できるよう例えば、学期ごとに交代するなど、配慮が必要です。

また、代表委員会を運営する児童会計画委員(運営委員)は、代表委員会を構成している学級代表、各委員会代表の中から互選で選出し、適宜交代しながら、司会やノート書記、黒板書記などの役割を経験できるようにします。教職員は、代表の児童がリーダーとして学校をよりよく、より元気にしている等の実感をもてるよう、支援することが大切です。

ポイント2

児童によりよい学校生活づくりへの参画意識をもたせるための工夫をしましょう。

代表委員会は指導計画に基づいて、教職員の適切な指導のもとで行われるものですが、取り上げる議題については、学校生活の充実と向上を目指した児童の自発的、自治的な活動が尊重されなければなりません。「全校の児童にとって、切実な問題となっているもの」「学校生活上の共同の問題」「児童の自治的な活動の範囲内で創意工夫の余地をもつもの」等がその条件として考えられます。

「学校全体へ提案することによって、問題の解決ができた」「みんなで話し合うことによって生活をよりよく向上することができた」「決めたことを実行することで、学校生活がより楽しくなった」といった、**自分たちで成し遂げた手応えを積み重ねることが大切です**。そのことが、自発的、自治的な活動への意欲を高め、児童自らが解決しようとする意欲や態度を育てることにつながり、代表委員会の価値を高め、各学級会での話し合いも充実していくといった好循環を生み出します。

児童がよりよい学校生活づくりに参画しようとする態度を身に付けることは、よりよい地域づくりに参画しようとする態度に直接つながっていくものです。「学校をよりよくしたい」「学校を元気にしたい」といった学校づくりへの参画意識を高められるよう、教職員は意識づけを折に触れて工夫していくことが大切です。

9-1 小学校 中学年総合的な学習の時間 指導事例 「笑顔と笑顔が会う私たちのまち」(福祉)

【単元目標】

自分たちの町を見つめ直し、そこに住む人たちがより幸せになるために自分ができることを考え、実践する中で、協同的に探究し、問題をよりよく解決することができるようにする。

【目指す子どもの姿】

まちに町に住む人たちのために、自分ができることを多角的に考え、意思決定し、実践に移している

1 本単元の流れと「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

学 習 活 動 (全 32 時 間)	ポイントになる学びのプロセス
<p>まちに住むいろいろな人を思い出してみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃の話や2年生の頃行った、まち探検の話から、地域で生活をする様々な人のことを想起する。 ・暮らしやすさという視点から「自分たちのまちのよさ」「自分たちのまちのもっとこうなったらいいと思うところ」の考えを出し合う。 	
<p>暮らしやすさを考えながら、まちを散策してみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが出した予想を意識しながら、「暮らしやすさ」という視点で自分たちのまちを実際に散策する。 	
<p>住民の「幸せ」って何だろう？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちの散策を振り返り、実際によかったところ、課題であると感じたところをまとめる。 ・住民の「幸せ」とは何か、どうなることが住民にとっての「幸せ」につながるのかということを考える。 ・自分たちの力で笑顔を増やすことができないか考える。 	<p>多角的に考える</p>
<p>プロジェクトを実行しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが考えたプロジェクトである「笑顔大作戦」の計画を立てる。 ・「笑顔大作戦」の準備をする。 ・実践し、まちの人の反応を確かめる。 ・実践から得た反省をもとに、よりよいプロジェクトになるように計画を立て直す。 ・立て直した計画を実践に移す。 	<p>主体的に行動する</p>
<p>このまちで生きていく私たち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を振り返り、これからもこのまちで生きていく自分たちが何をこれからしなければならないのかを考える。 	

2 政治的教養を育むためのポイント

ポイント1

単元を貫く拠り所（テーマ）を考え、合意形成して、共有しましょう。

総合的な学習の時間では、指導事例のように1単元の時間が長くなることが想定されます。その場合大切にしたいことは、単元を貫くテーマを合意形成し、単元の要所でここに立ち戻ることです。そしてこの拠り所にもとづいて様々なことを決定していく作業が必要になります。拠り所を作る際の要素には次のようなものが考えられます。

- A：この単元でめざすゴール・児童の思いや願い
- B：総合的な学習の時間における学び方
- C：活動可能な時間・場所等のハード面の条件

Aは、何のためにこの活動をしていくのか(しているのか)という点であり、特に重要なものです。本単元で言えば、「まちで暮らす人の笑顔を増やしていく」ということですが、「笑顔」はどのようにしたら生まれるのか、という点について掘り下げていくことも必要かつ有意義でしょう。またBは、総合的な学習の時間ではどのように学んでいくかという点であり、「みんなが参加して力を合わせて」「あきらめず繰り返して」「地域に発信していく」など、総合的な学習の時間で大切にする探究と協同を子どもの言葉で表現されることが大切です。Cは、あくまでも学校教育の中で行うということから、時間や場所が限定されます。合意形成する際にはこのハード面の条件も事前に提示することが求められます。これらの要素を含んだテーマを設定することで、個人での意思決定、集団での合意形成が実を伴って行われることとなります。

ポイント2

児童がくり返し取り組めるものを取り上げ、十分な試行錯誤ができる時間を保障しましょう。

一つの問題を解決するにあたり、長い時間にわたって、仲間とくり返し事に当たることが求められます。そのことを想定し、小学校段階で一つの問題に試行錯誤しながら、じっくりと取り組む経験をしておくことは政治的教養を育むうえで大切です。

探究と協同がキーワードとなる総合的な学習の時間は、政治的な教養を育む教育とも親和性が高いと言えます。また学習指導要領に定められる目標にもとづいて、各学校で目標と内容を決定することができ、目の前の子どもの実態から単元を作ることができるという特長があります。

本単元の後半は自分（たち）が意思決定したことを実践していく学習活動になりますが、この際試行錯誤できる十分な時間を保障することが大切です。いくらよい取組でも、時間がなくて一回しか実践（体験）できないということであれば、本単元で願う児童の資質・能力は育成されません。児童が何に取り組むかを決める際には、それが日常的に繰り返しできるかどうかを選択する視点として提示することが必要でしょう。

また、実践にあたっては実践と実践の間が重要になります。じっくりと振り返り、改善点は何かを吟味し、次の実践に生かしていくというサイクルを大切にしていきたいと思います。

9-2 小学校 高学年総合的な学習の時間 指導事例 「下町活性化プロジェクト」

【単元目標】

地域の商店街をよりよくするためはどうしたらよいかを追究することとおし、地域に対する自分の考え及び愛着をもつようにする。

【目指す子どもの姿】

他の人と協同して地域をよりよくするための考えを深め、社会に参画していく姿

1 本単元の流れと「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

学 習 活 動 (全 13 時 間)	ポイントになる学びのプロセス
<p>地域を見学・調査していくと、地元の商店街にはシャッターが閉まっている店舗が多く、活気がない雰囲気。一方で、近接の産地直送センターには県内はもちろん、県外からの来客も多いことを発見。そこで、産地直送センターの来客にどうやって下町にまで来てもらうかを学習課題として設定した。他の観光地と比較したり、地域の人にインタビューしたりしたことをもとに解決策を考え、市役所の観光企画課に提案することにした。</p>	<p>ポイントになる学びのプロセス</p> <p style="font-size: 2em;">↓</p> <p>主体的に行動する</p>
<p>課題解決のために情報を集め、自分の提案をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題意識をもち、学んだことを生かして解決策を考える。 ・提案に必要な追加の情報を集める見通しをもつ。 	
<p>地域の方へのインタビューを通して更に自分の提案を深める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商業や水産業、福祉などに携わる人の話を聞いて、多面的・多角的に情報を収集する。 ・よりよい解決に向けて、学んだことや情報収集したことをもとに解決策を再考する。 	
<p>他の人との協議を通して深め、自分たちの提案をまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の提案を発表し、他の人に伝える。 ・他者と意見交換をし、提案の似ている者同士でグループを組織し、提案を再構成する。 <p>C：観光客はもちろん、地域の高齢者も乗れるコミュニティバスを走らせよう。</p> <p>C：空き漁船を有効活用し、水上バスを運行したらどうだろう。</p> <p>C：商店街のキャラクターを募集し、いろいろな商品にしたらいいかも。</p>	
<p>自分たちの考えを提案する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめた下町活性化案を観光企画課に提案する。 	
<p>学びを振り返り、社会に参画する意義を考える (授業展開例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光企画課に提案した感想を話し合う。 ・地域に対して今現在できること、将来できること・やりたいこと等について考える。 ・単元の振り返りをする。 	

2 政治的教養を育むためのポイント

ポイント

学びを振り返り、社会に参画する意義を考えましょう

児童は、自分たちで企画したものを地域に提案する等の社会に参画する経験をした場合は、活動を振り返る時間を設け、社会に参画するという経験から自分たちが何を学んだのかを確認させましょう。

また、児童が主体的に構想し、提案したとしても、すべてが地域に採用されるということではありません。そのことを児童と確認するとともに、何のために社会へ参画したのかというねらいを考えることが大切です。学びを肯定的に振り返ることが、総合的な学習の時間のねらいでもある自己の生き方を考えるきっかけになり、かつ今後の社会に参画していく力を育成することにつながります。

総合的な学習の時間（5～6年生）における「政治的教養を育む教育」につながる授業展開例

- T 「みんな、観光企画課に提案してみてどうだった？前回の授業の振り返りを交流しましょう。」
- C 「ぼくは緊張したというのが実感。めったにない経験ができてよかったと思う。」
- C 「自分たちのアイデアが採用されたら嬉しいと思う。」
- T 「そうだね。採用されたらすごいことだね。でもさ、もし採用されなかったらみんなはどう思う？」
- C 「せっかく考えたのに残念だと思う。」
- C 「でも、そう簡単には実現できないよ。仕方ないよ。」
- C 「じゃ、何のために提案したの？採用されないことを分かっているのに提案するなんて意味がなかったと思います。」
- T 「考え方が分かれてきたね。みんなが提案したことに、意味はあるという人と意味はなかったという人。他のみんなはどう？みんなが提案したことに意味はなかったのかな？それとも、あったのかな？今までの学習を振り返りながら考えてみましょう。」

（個々で思考する時間）

- C 「ぼくは提案したことに意味はあったと思います。だって、今回の勉強で地域のことを深く考えられるようになったもん。今すぐにはできないかもしれないけど、この経験が将来何か役に立ちそうな気がする。」
- C 「ぼくも意味はあったと思う。だって、将来僕たちが大人になって、観光ボランティアをしていたAさんみたいになるかもしれない。その時は、今回の勉強のことを思い出したいな。」

（後略）

9-3 小学校 高学年総合的な学習の時間 指導事例 「お米の秘密を探ろう～農薬を使う？使わない？～」

【単元目標】

地域と関わりながら学ぶ中で、筋道を立てて考え自分で判断して問題解決学習を進め、米の生産やそれにまつわる文化について、自分との関わりの中かで考えようとする。

【目指す子どもの姿】

異なる意見や他者の考えを受け入れ、他者と協同して課題を解決する姿

1 本単元の流れと「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

学 習 活 動 (全5時間)	ポイントになる学びのプロセス
<p>お米を育てる体験を続ける中で、自分たちの育てている稲には、農薬を使うべきかどうかについて、問題になった。そこで、農薬と収穫量との関係や農薬の安全性、農薬を使わない農法等について自分で調べたり、地域の農家の人にインタビューしたりしたことをもとに話し合い、方向性を決めることになった。</p>	
<p>課題解決のために情報を集めて、自分の考えをつくる①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農薬の是非について課題意識をもち、何について調べるのかを決める。 ・ 課題に必要な情報を集め、自分の考えをつくる。 	<p>ポイント1 情報を収集する</p>
<p>地域の方のインタビューをとおして、さらに自分の考えを深める①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際に農業に携わる人の話を聞いて、農家の人工夫や苦労について知る。 ・ よりよい解決に向けてどのようなことを調べ、考える必要があるかの視点をもつ。 	<p>ポイント2 自分の意思を決定していく</p>
<p>自分の考えを、他の人との協議をとおして深める①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えを表現し、他の人に伝える。 ・ 異なる意見や他者の考えを受け入れ、自分の考えを深める。 	
<p>今後自分たちの田んぼやバケツ稲をどうしていくのかを決める①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学級で協議をし、自分たちのできることを考える。 ・ 今後、農薬を使うのか、その他の方法をとるのか、自分たちの考えを実行に移す準備をする。 	
<p>自分たちの田んぼに農薬を使用するか、使用しないかで活動を進める①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちの考えを実行に移し、米作りを続けていく。 ・ 様々なことを体験しながら、自分の見方や考え方を広げていく。 	

2 政治的教養を育むためのポイント

ポイント1

自分なりの視点をもって情報を収集し、クラスで意見交換を行いましょう。異なる視点からの意見交換で、考えが深まっていきます。

物事の決断や判断を迫られるような話し合いや意見交換を行うことは、収集した情報を比較したり、分類したり、関連付けたりして考えることにつながります。そのような場面では、**異なる視点からの意見交換が行われることで、互いの考えはより深まります。**

農薬の使用は、米を順調に生育させ、病害虫などから守る役目があります。一方で、農薬を使用しないことに価値を見出している農家も存在します。実際に米作りの体験をしたり、生産者の苦労などを直接聞き取ったり、農作物の成長や農薬の科学的な働きを調べたりした上で話し合いを行うと、異なる視点での意見が出され、互いの考えを深めることにつながっていきます。このことにより、農薬の使用がどのような理由で行われているのか、そのことが食糧生産や農業事情と深く関わっていることなど、児童の幅広い理解と思考の深まりを生むこととなります。

このように異なる視点を出し合い、検討していくことで、一つの事象に対する見方や考え方が深まり、学習活動をさらに探究的な学習へと深めていくことが考えられます。

ポイント2

試行錯誤を繰り返し、実感しながら学んでいく児童の主体性を大切にし、寄り添いながら学習を進める意識をもちましょう。

話し合いを重ねた後、児童は、どうすべきかの判断に迫られます。全員で一つの田を作っている場合は、最終的には合意形成が必要になってきます。話し合いが単なる意見のぶつけ合いにならないよう、根拠をもって意見を言うとともに、自分と違う意見も認められるようにする必要があります。また、少数派の意見も大切にすることを、指導者がもっておく必要があります。いざ、農薬をまいてしまったら、思いもよらず、色々な生き物が死んでしまっている状況を目の当たりにし、ショックを受けてしまう児童もいます。もう一度、話し合いを振り返り、命の尊さという視点も含めて検討しなおしていくことも考えられます。

また、農薬を使わないということにした場合、学習を進めていくうちに、虫や鳥の被害から米を守っていくためには、相当な労力を要することになります。「農家の人たちは大変な努力をしているよね。」といった実感を伴った考え方に変わっていくことも期待できます。教員は、その時々児童の姿に寄り添いながら、柔軟に学習を組み立てていく必要があります。このことが、児童の主体性を育てていくとともに、こういった実感を伴った理解が、児童の地域社会を見る視野を広げ、社会に対する関心が高まり、社会参画につながっていくと考えられます。

10-1 中学校 1年生社会科[地理的分野] 指導事例
「南アメリカ州 アマゾンの森林開発と環境保全」

【単元目標】

- ・世界の各州に暮らす人々の生活を追究することにより、我が国の国土に対する認識を深める。
- ・アマゾンの森林破壊の実態や環境保全に対する人々の意識や政策を取り上げることを通して、「環境と開発の両立」や「環境保護における矛盾や葛藤」について考え、持続可能な社会を目指すことの大切さに気付く。

【目指す子どもの姿】

- ・学習課題の解決に向け、調べたことを根拠にしながら自分の考えをつくり、他者との話し合いにより、自分の意思を決定していく姿

1 本単元の流れと「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

学 習 活 動 (全6時間)	ポイントになる学びのプロセス
<p>資源が豊富な南アメリカ州について知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活と南アメリカ州との関わりについて知る。 S：日常生活で使う金属などの資源は南アメリカ産が多い。 S：アマゾンでつくられる酸素は地球規模で影響を与えているらしい。 ・地図帳を見て資源を探す。 S：アンデス山脈やアマゾンの森林地帯に資源が多い。 	<p>ポイントになる学びのプロセス</p> <p>関心をもつ</p>
<p>アマゾンの開発の実情について調べよう (授業展開例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アマゾンの開発は人々を幸せにしていると言えるのか考える。 S：アマゾンの開発により、資源を世界中に輸出しているのだから、人々にとってよいことだと思う。 S：自然を大規模に破壊しているのは事実なので、地球全体から考えるとマイナスなことが多いと言えるのではないか。 	<p>情報を収集する</p>
<p>サトウキビの栽培は環境によいのか考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植物からできるバイオエタノールは環境問題を解決するのか考える。 S：サトウキビからできるバイオエタノールはクリーンなエネルギーだからアマゾンでも積極的に栽培するべきだ。 S：結局、環境を守るという動きが、商売の目的となってしまう、逆にアマゾンの環境を壊す原因になるのはおかしい。 	<p>多面的・多角的に考える</p>
<p>これから私たちにできることについて考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを生かし、これから私たちができることを考える。 S：日本に暮らす私たちも、環境と開発の両立についてもっと考えるべきだ。 S：身近な環境保護について、もっと目を向けていかないといけない。 	

2 政治的教養を育むためのポイント

ポイント1

「自分のこと」としてとらえさせるために学習問題の設定を工夫しましょう。

世界各州の学習では、単なる知識を身に付ける学習で終わらないようにする工夫が必要です。「普段の生活をよりよいものにするためには、どうすればよいのか」というように自分のこととして課題意識をもたせ、日本と世界各地とのつながりを考えられる単元構想に努めましょう。

ポイント2

課題について、多面的・多角的に情報を収集したり、考えたり、判断したりしましょう。

公正に思考・判断する力をつけていくためには、根拠のない思い込みや、ひとりよがりな考えでものごとをとらえさせるのではなく、確かな情報を調べ、多面的・多角的にとらえさせることが必要です。

学習展開例（第2、3時）

- T：「アマゾンの開発を進めてメリットがある人はだれだろう。」
S：「資源を海外に輸出する人と、その資源を使う私たちだと思います。」
S：「アマゾンに暮らす人たちも仕事ができるからメリットがあるのでは...」
T：「では、メリットがなくなると思われる人たちはどうだろう」
S：「森林が破壊されて環境が悪くなるんだから、地域の人にはメリットがあるとは言えない」
S：「環境が破壊されることによって、私たちも影響を受けるんだから世界的にもあまりよくないと思う」
T：「同じ立場でも判断が難しいし、違う立場によっても見方が変わってきますね。実際にデータなどを調べてから、もう一度考えていきましょう。」

この単元では、多面的とは、自然環境の面、産業（第一次産業、第二次産業、第三次産業）の面、生活・文化の面などからの見方を言い、多角的とは、展開例のようにそこに関わる人々の立場からの見方を指します。

ポイント3

学習していく過程で対立から合意形成へのプロセスを体験させましょう。

この単元では、「環境と開発という対立」、「関わる人たちの立場による対立」をあげて、よりよい社会を構想していくためにはどのような解決があるのかを考えさせることに努めましょう。また、サトウキビ栽培の学習問題のように、葛藤が生まれる課題を設定するとよいでしょう。

意見が対立する場合は、生徒の考えを賛成と反対に分けたり、生徒の発言を分析しながら板書したりするなどして、一人ひとりの考えが教室内で分かるように視覚化すると、その中庸の意見が生まれたり、新たな意見が出たりして合意形成へプロセスを示すことができるでしょう。

10-2 中学校 2年生社会科[地理的分野] 指導事例 「鎌倉の防災について考えよう」(身近な地域)

【単元目標】

- ・観察や調査などを通して、身近な地域に対する理解と関心を高めさせる。
- ・鎌倉の防災という話題から、地域を生活、自然環境、歴史文化などの面から迫り、また住民、産業に関わる人、観光客などのいろいろな見方から検討することにより、よりよい地域をつくっていくにはどうしたらよいかについて自分の考えをもつ。

【目指す子どもの姿】

学習課題の解決に向け、調べたことを根拠にしながら自分の考えをつくり、他者との話し合いにより自分の意思を決定していく姿

1 本単元の流れと「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

学 習 活 動 (全7時間)	ポイントになる学びのプロセス
<p>私たちが生活する鎌倉とはどのような街なのか知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地形図や街の情報誌などから街の姿を知る。 S: 鎌倉には住民以外に観光客の人がたくさんいる。特に海外の人が多い。 S: 平日よりも休日の方が駅は混んでいる。休日の渋滞がすごい観光地だ。 S: 歴史的な街として有名だけど、住宅の開発も進んでいるね。 S: 大きな災害が起きると大変な被害が出そうな地域だ。 	
<p>大規模災害が発生したときの状況を予想しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に発生する災害について考える。 S: 大きな地震が発生した後、数分で鎌倉の街に津波が来ると聞いたよ。 S: 鎌倉の街は山に囲まれ、谷戸が多い地域だから、がけ崩れが怖い。 S: 災害時、住民だけでなく観光客も含めて避難するのは難しい。 	
<p>鎌倉の防災について調べてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉の防災について調べて課題を見つける。 S: 鎌倉には津波避難場所に適した高い建物がないような気がするけど。 S: 谷戸など道路の狭い地域の火災はどうするのだろうか。 S: もしもの時、外国人観光客の避難は大丈夫なのかなぁ。 	<p>情報を収集する</p>
<p>これからの鎌倉について話し合おう (授業展開例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉を安心・安全な街にするためにはどうしたらよいか話し合う。 S: 景観も大切だが、津波対策として高い建物をもっと必要だと思う。 S: 安心・安全な街づくりと、自然や歴史的なものの保存の両立は難しい。 	<p>自分の考えを再構築する</p>
<p>地域の中で自分ができることを考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを生かし、これから私たちができることを考える。 S: いろんな立場の人にとって、よりよい地域を考えていかないといけないと思う。 	<p>自分自身を振り返る</p>

2 政治的教養を育むためのポイント

ポイント1

自ら情報を得る場面を設定しましょう。

行政機関発行の資料やそこで働く人の話、地域の人々の意見を調査し、実際の声を聞くことが重要です。特に、議会制民主主義を採用している我が国では、課題に対して地方議会がどのような対策をとろうとしているのかを調べさせることが大切です。

ポイント2

対立するであろう事象を意図的に取り入れましょう。

地域学習をするうえで、対立する見方や考え方に気付かせ、合意形成を目指していく難しさや必要性を実感させることが大切です。

本単元では、「津波対策の高層建築物と歴史的景観」「土地開発による住宅地の建設とがけ崩れの危険」「狭い道がある地域の防災と区画整備による自然破壊」「住民の暮らしと地域の産業や観光客の利便性」といった対立が考えられます。これらの対立を中心にして、多面的・多角的に課題をとらえさせ、自分の考えを形成させていくことが大切です。そして他者との意見の交換をとおして、地域づくりには話し合いが不可欠であることを気付くようにすることが大切です。また地域の課題の中には、人々の努力によって両立を実現している事象も存在するので、単純に賛否を問う形で話し合いを進めるのではなく、社会参画をしていく姿勢を十分に育てられるように進めていくことが重要です。

学習展開例（第5、6時）

T：「谷戸の狭い地域の火災についてはどうしていけばよいのだろう。」

S：「狭い道には消防車が入れないので、谷を削ったり道を広くしたりすることが必要だと思います。安心安全な暮らしの前では、環境を変えていくことも仕方がない。」

S：「防災のためとはいえ、山を切り開くのは鎌倉の街としてよくないのではないか。」

T：「谷戸の防火活動について、現在の地域の対策をしっかりと資料を調べてみよう。」

S：「狭い道の地域では、消火活動にたくさんの工夫がされていることが分かった。」

S：「どちらかを優先ということ以外にも方法はあるみたいだ。」

T：「一見対立しそうなことでも、そこに関わる人たちの工夫と努力によって解決していることがありますね。そのような点にも注目していきましょう。」

ポイント3

学習を振り返らせる場面をつくりましょう。

単元で学習したことをふまえて、公民的分野で学習する単元「地方自治」につながる資料を作成することにより、より実践的な学習が期待されます。

また総合的な学習の時間で実際に学校の避難ルートを考えさせたり、外国語の授業で海外からの観光客向けの防災マップをつくったりするなど、横断的な学習を展開させる工夫が必要です。

この指導例は63ページ「13 指導例の実践」で実際の授業の様子を掲載しています

10-3 中学校 3年生社会科[公民的分野] 指導事例 「地域のゴミ処理について考えよう」(地方自治)

【単元目標】

- ・地域社会における住民の福祉は、住民の自発的努力によって実現するものであり、住民参加による住民自治に基づくものであることを理解する。
- ・地域のゴミ処理という課題から、ゴミを出す住民の立場だけでなく、ゴミ処理場近隣の住民や、企業、そして行政など、様々な立場の意見を検討し、地域に関わる人々がよりよい地域をつくっていくにはどうしたらよいかについて自分の考えをもつ。

【目指す子どもの姿】

学習課題の解決に向け、調べたことを根拠にしながら自分の考えをつくり、他者との話し合いにより、自分の思いを表現し、社会に参画していこうとする姿。

1 本単元の流れと「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

学 習 活 動 (全7時間)	ポイントになる学びのプロセス
<p>地域のゴミはどれくらいあるのだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のゴミ処理について知る。 <p>S:家庭のゴミはお金を払って処理しているが、地域のゴミについてはどのようなになっているのだろうか。</p> <p>S:市町村によってお金を払わない地域もある。</p> <p>S:観光客はたくさんゴミを出すけど、その費用は地域の人負担しているの？</p>	<p>ポイント1</p> <p>関心をもつ</p>
<p>地域のゴミ処理について、どのような課題があるのか知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ処理の現状から課題を見つける。 <p>S:観光客の人のポイ捨てゴミの処理が大変らしい。特に夏場の海岸では、大量のゴミで住民が迷惑している。</p> <p>S:海外から来る人に、ゴミ捨てのルールを伝えるにはどうすればよいか。</p> <p>S:市内にあるゴミ処理場の許容量は大丈夫なのだろうか。</p>	<p>ポイント2</p> <p>自分の考えを構築する</p>
<p>地域のゴミ処理の課題を解決していくための策を考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ処理の課題を解決していくための策を話し合う。 <p>S:観光客も含めて、ゴミを捨てる人全員に負担させるべきだ。</p> <p>S:ゴミのポイ捨てなどには厳しいルールが必要だと思う。</p> <p>S:あまり厳しい条例をつくると観光客が来なくなり、景気が悪くなる。</p> <p>S:周辺の市町村の様子を参考にしないといけないのではないか？</p>	<p>ポイント3</p> <p>自分の考えを主張する</p>
<p>地域の政治に積極的に関わるにはどうすればよいか考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の政治へ参加する方法を知る。 <p>S:自分たちでルールをつくったりすることもできる。</p> <p>S:まずは身近なことに興味をもって調べてみるのが大切だ。</p>	

2 政治的教養の育成につながるポイント

ポイント1

地域の情報を積極的に活用しましょう。

地方自治の学習では、地域の情報に関心をもたせることが大切です。授業のはじめに1分間スピーチタイムを設定し、新聞の地域面や公共機関が発行している出版物、小学校で配付された副教材などから、自分が興味をもったことを話す場面の設定があると、授業の展開がスムーズになります。

ポイント2

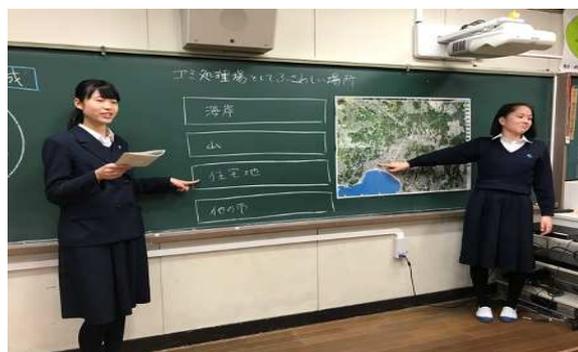
生徒の意見を視覚化して、自分の考えをまとめさせましょう。

生徒の意見が多く出たときには、生徒に分かりやすく視覚化して板書するとよいでしょう。思考ツールを使ったり、構造化して板書したりする工夫をして、生徒が授業内での思考の過程を追っていけるようにしましょう。



【ベン図】

課題に対する賛成意見や反対意見、そして共通点を分かりやすくしている。



【ランキング】

根拠を明確にさせるねらいから、課題解決の方法を順位付けする。

ポイント3

根拠や理由を明確にさせましょう。

生徒が自分の考えを他者に伝える時には、根拠や理由を明確にして伝えるように助言しましょう。特に現実社会における社会的な諸問題について、事実認識が薄いままの発言は、生徒の思いつきの意見や、非現実的な意見、ひとりよがりの意見であることが多くなりがちです。

そこで、発言する際には、各種データを活用して根拠を明確にすること、他者の発言を受けて自分の考えを発言することなど、より深い学びが得られるような工夫が必要です。

10-4 中学校 3年生社会科[公民的分野] 指導事例
「安心して暮らせる社会とは？」 (国民の生活と政府の役割)

【単元目標】

国民の生活と福祉の向上に資するために政府は経済活動にどのように関わるべきかを考えようとする。

【目指す子どもの姿】

安心して暮らせる社会の実現にむけて経済活動や政府の役割はどうあるべきかを理解し、よりよい社会について考えていこうとする姿

1 本単元の流れと「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

学 習 活 動 (全7時間)	ポイントになる学びのプロセス
<p>働くということは何だろう？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業講話や職業体験などの学習を振り返り、働く意味を考える。 ・基本的人権で学習した労働権や義務との関係についても考える。 	<p>ポイント1</p>
<p>働く人を取りまく環境を知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用環境の変化(非正規雇用・雇用の流動化・失業率の変化など)について知る。 ・労働者の立場を守る法制度や労働組合の意味について考える。 	<p>関心をもつ</p>
<p>安心して働ける社会にするにはどうしたらよいだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワーク・ライフ・バランスを実現するためには、どのような法制度や仕組みが必要となるか。 ・雇用環境の変化とともに、労働者の権利をどのように保障していくかを考える。 	
<p>現代の日本の社会像と社会保障について知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「現代社会の見方」で学習した、社会像がもたらす影響について考える。 ・日本の将来予測をし、どのような課題があるか話し合う。 	
<p>社会保障の仕組みについて考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会保障の仕組みを理解し、その意味や役割について考える。 	
<p>誰もが安心して暮らせる社会を目指して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・投票率の年代別割合などから、どのような政策が重視されているか話し合う。 ・すべての人が安心して暮らすための社会保障制度をつくるためには国民の合意や財源が必要であることを理解する。 	<p>ポイント2</p>
<p>よりよい社会を目指して～経済活動と政府の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心して暮らせる社会をつくるために、社会保障制度をもとに政府はどのような働きかけをしていくかを考える。 	<p>多面的・多角的に考える</p>

2 政治的教養を育むためのポイント

ポイント1

公民的分野の学習では「対立と合意」「効率と公正」の関係を考えましょう。

公民的分野の学習では、取り上げた事象に関わる人々や集団の立場や意見によって、利害の違いが生じることがあります。このような「対立」が生じた場合、「合意」に至る努力がなされていることについて理解させることが大切です。また、「合意」の妥当性について判断しなければいけなくなるときには、「効率」と「公正」等の考え方が代表的な判断の基準になります。

ここでは、会社側（使用者）と労働者が労働条件などそれぞれの立場から「対立」が生じますが、両社が「効率」と「公正」の関係から「合意」に至る方策を模索したり、「安心して暮らしていける社会の実現」という視点から政府がそのしくみをつくっていることにも気付かせるとよいでしょう。

また、現代社会における様々な労働をめぐる問題にも触れ、どのような働き方が良いかを議論することも大切です。

ポイント2

今後の日本がよりよい社会になるためには、どうあるべきかを考えましょう。

公民的分野のはじめに「私たちが生きる現代社会と文化」や「現代社会をとらえる見方や考え方」などで学習した現代社会の諸課題をふまえたうえで、今後の日本が目指すべき社会像をとらえさせ、その実現に向けて何が必要かをこの単元での学習と結びつけることが大切です。

例えば、「高い水準の福祉を受けられが、その分負担の大きい北欧型か、低い水準の福祉で低負担のアメリカ型の社会保障制度か」が考えられます。それぞれ、メリット・デメリットを話したうえで、人々が安心して暮らせる社会にするためには、どのような制度がより適切かを考えてみるとよいでしょう。その際に、公平性という視点や税の配分についても議論が深まるとよいでしょう。

11-1

中学校 特別活動（学級活動） 指導事例 「学級委員を中心に学期末の反省をしよう」

【目標】

学級活動をとおして、望ましい人間関係を形成し、集団や社会の一員として、学級や学校におけるよりよい学校生活づくり参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的・実践的な態度を育てる。

【目指す子どもの姿】

他人のことではなく自分のこととして反省を行い、次の目標に生かしていく姿

1 主な活動と「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

主 な 活 動	ポイントになる学びのプロセス
<p>学年での学級委員会会議</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学級の現状を情報交換し合い、課題について確認する。 自分の学級のことだけでなく、協力し合ってよい学年を共にすることを確認する。 学年目標を達成するために、「よりよい学級」とはどんな学級なのかを意見交換する。 <p>学級会議</p> <p style="text-align: center;">ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学年の初めの学期の反省は、学級反省を行うのではなく、学級委員会から出された、学年目標を達成するための「よい学級のために必要な項目」の検討を行う。話し合いの中で、さらに精度の高い項目をつくり上げると共に、学年の各生徒によりよい学級とは、こういう学級なのだという考える材料を提供し、共通理解していく。 <p>学級委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学級の修正案を持ち寄り、学年総会にかける柱を絞り込む。 <p>学級会議</p> <ul style="list-style-type: none"> 学年総会に出される修正案に対する、学級の姿勢決定。 質問・意見・修正案を作成する。 <p>学年総会</p> <ul style="list-style-type: none"> 「よりよい学級を図る項目」の修正案の検討。 <p>学級会議（学期末反省）</p> <ul style="list-style-type: none"> 学年総会での決定をもとに反省を行い、自分の学級を振り返る。 <p>学級委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学級の結果を持ち寄り、見えた課題を洗い出し各学級に持ち帰る。 <p>学級会議</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の学級と他の学級の結果から課題を分析し、次の学期の目標を立て、方針をもとに具現化するための行動計画を立てる。 	<p>他者の考えを聞き、 合意形成を図る</p>

2 政治的教養を育むためのポイント

ポイント

学年目標を達成するための「よりよい学級」のために必要だと思う項目を話し合
いましょう。

学級での学期末の反省で使用する反省用紙の項目を、学級委員会で話し合い、生徒が主体的に決定していくことによって、学年目標を達成するためというねらいが明確になる項目になります。その際、次のような点を取り上げ、話し合うことによって、学級委員会でよりよい人間関係を築くことができます。

- ・学年や学級の現状や実態（課題や問題を取り上げる）
- ・問題の焦点化（解決への見通しをもつ）

話し合いでは、合意形成を図り、集団決定を行います。そうすることで、自分たちで決めた項目を達成していくために、意欲も高まり、自分のこととして課題や問題についてとらえることができます。

【生徒が話し合った項目の例】

- | | | |
|-----------|---------------------------|---|
| 「クラスの間関係」 | ・クラスの中にいじめや差別がない。 | |
| | ・人の失敗を笑わない。 | 等 |
| 「授業での取組」 | ・意見を自由に発言できる雰囲気がある。 | |
| | ・どの教科の授業でもまじめに取り組むことができる。 | 等 |

生徒が考えた項目から判断する「よりよい学級づくり」

（どんな集団、組織がよりよいのかを考えるきっかけにしましょう）

各学級の反省事項は、評価に規準があるように、よい学級とはどのような学級なのかが、学年生徒全員に共通理解されていて、その内容が生かされた項目のもとに反省を行うことで、課題の発見や次の目標、方針づくりに生かすことができます。

そのために、まず学級委員が考え出した反省項目の原案を、1学年の最初の学期に、学級会で検討、修正し全員が考えるきっかけをつくりました。この過程が反省をただ行うのではなく、全員を同じ舞台に乗せることで、一人ひとりの意識を、他人ごとでなく自分のこととしてとらえることにつながります。さらに、その結果から課題を分析し、全学級で見合えるようにすることにより、結果の客観性を高めるものにします。

さらに2学年、3学年とこの項目を修正しながら積み上げていくことで、経年変化をつかむこともできます。また3学年の最終反省では、この結果の後に、「昨日・今日・そして明日の私」というタイトルで、自分自身の変化を刻む作文を書かせ、振り返りをすることができます。

11-2

中学校 特別活動（生徒会活動）

指導事例

「生徒総会のあり方を考えよう」

【目標】

生徒会活動をととして、望ましい人間関係を形成し、集団や社会の一員としてよりよい学校生活作りに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的・実践的な態度を育てる。

【目指す子どもの姿】

他者の意見を聞き、自分の意思を決定し、さらに合意形成していく姿

1 活動の流れと「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

活 動 の 流 れ	ポイントになる学びのプロセス
職員会議	
<ul style="list-style-type: none"> 生徒総会で討議させる内容は、職員会議に通し、教職員間の合意を図っておくこと。 	
生徒会役員会議	ポイント1 身の周りの状況に気付く
<ul style="list-style-type: none"> 議案書の生徒会活動方針案、総会への取組日程づくり。 各種委員会、部長会、実行委員会等に対する働きかけ。 	
各種委員会、特別委員会	
<ul style="list-style-type: none"> 活動方針案を検討し、今年度の目標、方針をもとに委員会ごとの活動目標、方針、年間活動計画を立案する。 	
中央委員会	
<ul style="list-style-type: none"> 生徒会役員と各委員会の代表で共通理解を図る。 学級委員は全員参加。学級へ持ち帰る議案内容をしっかり把握し、説明できるようにしておく。 	
学級内討議	
<ul style="list-style-type: none"> 生徒会、各種委員会、部長会の活動方針案の検討する。 質問・意見・修正案（反対意見がある場合）を作成する。 	
中央委員会	
<ul style="list-style-type: none"> 生徒総会で扱う議案（討議の柱）を絞り込む。 	ポイント2
生徒総会	
<ul style="list-style-type: none"> 各学級から出され、中央委員会で精選された議題を全校生徒で話し合い決定する。（*修正案の可否の確認方法） 	主体的に行動する
中央委員会	
<ul style="list-style-type: none"> 総会の決定内容を確認し、具現化することへとつなげる。 	
【討議の柱の一例】	
<ul style="list-style-type: none"> 各委員会の日常生活における点検活動の内容や取組方。 あいさつの低迷、校歌を歌う声が小さい等の課題への取組。 生徒会予算の部活への配分、校庭などの使用場所の分割等。 	

2 政治的教養を育むためのポイント

ポイント1

学校の取組のなかで「民主制」を学びましょう。

学校の生徒会活動は、現在の行政の仕組みと類似しています。生徒会執行部 = 「政府」、各種委員会 = 「各省庁」、生徒が過ごす学校 = 「国」。このため学級の代表である学級委員会^会は議決機関「国会」であり、執行機関である他の委員会とは性質が異なるという認識が必要になります。また、委員会活動は学校生活を充実するために重要な役割を担っているという認識も必要です。

本来なら全員が一堂に会し、「話し合う」ことが基本です。国の政治等ではできないことですが、中学校では「生徒総会」でできます。民主主義を考える上で大切な体験となります。

社会では自分の意見を反映してくれる議員を選ぶことで政治に参加していきます。中学校では学級、学校の代表である委員や役員がそれにあたります。自分たちの代表は、民主的な手続きのもと、公平な選挙によって選ばれることの必要性を、体験を通して学びます。

ポイント2

生徒総会での話し合いには当事者意識をもたせましょう。

話し合いの結果が、学校生活に反映されるようなテーマを設定することで、生徒はより身近な問題として当事者意識をもって取り組むことができます。その成果や効果として次のようなことが考えられます。

一人ひとりの意見が反映され、お互いの考えを理解することができます。

様々な発想に触れ、自分の考えを再構築することができます。

生徒の様々なアイデアを生み出すことができます。

全校生徒の前で発言する機会は生徒にとって貴重な経験になります。話す内容、話し方等を工夫し、伝えやすい方法を考えることで、聞き手にとっても人の心を動かすプレゼンテーションの方法を学ぶ場となります。

また、一人一票を投じる機会も貴重な体験です。多数で可決される場合もあれば、数票差で可決されるといった場合もあるので、目前で物事が決まる緊張した雰囲気は心に残ります。

また、このとき、採決までのプロセスが大切になります。十分に意見を出し合い、採決をすることで決まったことに対する当事者意識が高まります。充実した生徒総会が行われた後の生徒は、「今、自分は何をすべきか」が自然と理解され、実行されていきます。

11-3

中学校 特別活動（生徒会活動）

指導事例

「生徒会役員選挙を活性化していこう」

【目標】

生徒会活動をとおして、望ましい人間関係を形成し、集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的・実践的な態度を育てる。

【目指す子どもの姿】

自分たちの代表を自分たちで決めることをとおして、身近な社会である学校と自分との関わりを自覚し、学校生活づくりに参画する意識を高める

1 活動の流れと「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

活 動 の 流 れ	ポイントになる学びのプロセス
<p>学級活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動が学校をよりよくするためのものであることを理解し、生徒会役員の意義や役割について理解する。 <p>選挙管理委員会の組織</p> <ul style="list-style-type: none"> 自発的・自治的な活動をするために、生徒会役員選挙の準備、広報活動、当日の運営に携わる選挙管理委員を各学級から選出する。また、選挙管理委員会において、委員長の選出や役割分担を決定し、組織的に活動するようにさせる。 <p>生徒会役員候補者の選出</p> <ul style="list-style-type: none"> 立候補者には、生徒に選ばれた学校の代表として、どのような学校にしたいかを考えることができるように指導する。 立候補者以外の生徒は、それぞれが考える「よりよい学校」とは何かを考えることができるように指導する。 <p>立会演説会</p> <ul style="list-style-type: none"> 立候補者は学校の代表としてあるべき姿を示し、公約として発表ができるようにする。 立候補者以外の生徒は立候補者の発表を聞き、それぞれの「よりよい学校」についてさらに考えを深め、自分の意思を決定していくようにさせる。 <p>生徒会役員選挙</p> <ul style="list-style-type: none"> 選挙管理委員会を中心に組織的に運営する。 投票をする時には自分たちの代表を自分たちで決めることを意識させる。 	<p>ポイント1</p> <p>他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する</p> <p>ポイント2</p> <p>主体的に行動する</p>

2 政治的教養を育むためのポイント

ポイント1

立候補者の考えを聞き、自分のこととして考えられるようにしましょう。

生徒会役員選挙では、生徒一人ひとりが生徒会の一員であることを自覚することができるよい機会です。学校生活の充実と向上を図る生徒会のリーダーを決めるものなので、立候補者の生徒のみならず立候補者以外の生徒にもよりよい学校とは何かを考えさせ、生徒の意識を高めていくことが大切です。

立会演説会では一部の生徒だけのものにならないように、立候補者以外の生徒が事前に立候補者の公約をよく読み、自分のこととして考えることで参加する意識が高まります。

また、立候補した生徒は、どのような学校にしたいのかを、分かりやすく聞く側の生徒に伝えることができるようにさせましょう。生徒の聞く姿勢や話し方を意識させる機会でもあります。



立会演説会の様子

ポイント2

自分たちの代表を自分たちで決める意識をもって、投票できるようにしましょう

投票では、立会演説会や立候補者の公約、広報活動等を参考にして、自分の考えで投票できるようにさせましょう。その際、自分たちの学校の代表を自分たちで決めることへの責任や心構えについても指導しましょう。

立候補した生徒の単なる人気投票やパフォーマンスを見て思いつきで投票することがないように、事前に指導することも大切です。生徒が落ち着いて投票できるよう、投票時間を区切って学級ごとに投票させる工夫も考えられます。

また、公職選挙で実際に使われている投票箱や記載台を活用することで、生徒の意識が高まり、活性化することが期待できます。各市町村選挙管理委員会の連絡先は70、71ページに記載されていますので貸出しを希望する時に参考にするとよいでしょう。

生徒会役員選挙後は、役員に選出された生徒のみならず、立候補者以外の生徒も、生徒会活動に参画することをとおして、よりよい学校生活づくりに関わる意識をもつように指導しましょう。



記載台を活用しての選挙の様子

11-4

中学校 特別活動（学校行事） 指導事例

「地域の一員として参加する学校行事」

【目標】

学校行事をとおして、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。

【目指す子どもの姿】

地域の協力を得ながら、奉仕的活動や避難訓練を自主的に取り組むことで、地域の一員として自覚をもち、地域社会に貢献し、協力しようとする姿

1 主な活動と「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

主 な 活 動	ポイントになる学びのプロセス
<p style="text-align: center;">ポイント1</p> <p>学校区での地域清掃活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域でボランティア活動をしている方の講話を聞き、ボランティア活動の意義について理解を深める。 ・ 生徒会役員等が中心となり、清掃分担の場所やグループ分け等について小学校の児童会と協議する。 ・ 学校区の小学校、中学校、地域の町内会やボランティア活動をしている方々と協力して清掃活動を実施する。 	<p>関心をもつ</p>
<p>地域と連携した避難訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒や保護者へ、地域の消防団員の方や消防署員の方等の講師を招き、学校や通学地域の実情に照らし合わせた具体的な防災講演会を開催する。 ・ 地区ごとに災害図上訓練（DIG）を設定し、地域における災害を想定したイメージトレーニングを行って、地域の防災について知り、話し合う。 ・ 学校だけで行う避難訓練だけでなく、地域への協力を要請し、さらに現実に近いものにしていく。災害が昼間に起こったら、地域の青年や大人は仕事等で自分の地域にいないことを考える。 ・ 学校区の地区ごとによる集団下校等を実施する。 ・ 地域において、自分自身に何ができるかを考える。 	<p style="text-align: center;">ポイント2</p> <p>情報を収集して、他者の意見を聞いて判断する</p>

2 政治的教養を育むためのポイント

ポイント1

事前・事後指導を活用し、地域の一員として協力しようとする態度 育てましょう。

社会奉仕活動を行う場合、社会奉仕やボランティアに関心をもつとともに、自主的に取り組むことが大切です。事前学習では地域でボランティア活動をしている方の講演会などを開催し、「よりよい地域」のために自分たちに何ができるかを生徒自身が考えることで、目的をもって清掃活動に参加することができます。

地域清掃活動では、できる限り地域の方を交えた異年齢の人々とのグループを構成することで、児童・生徒が協力しようとする態度が育つことができ、地域に開かれた学校にしていくことができます。

事後活動では、事前に立てた目標が達成できたか、清掃活動に関する振り返りを行い、日常生活に生かすことが大切です。

ポイント2

地域住民の一人として、防災について意識しましょう

災害図上訓練（DIG）とは、災害（Disaster）のD、想像力（Imagination）のI、ゲーム（Game）のGの頭文字を取って、名付けられた誰でも行うことができる訓練のことです。また、英語のdig〔動詞〕から「防災意識を掘り返す」「地域を探究する」「災害を理解する」といった意味を込めて、「ディグ」と呼んでいます。

大きな地図を参加者全員で囲み、一緒になって対応策を考えることで、自分たちが住む地域の防災に対する意識が生まれ、地域の防災ネットワークが形成されるという効果があります。



災害図上訓練（DIG）の様子

東日本大震災における、いわゆる「釜石の奇跡」と呼ばれる小・中学校における避難行動では、釜石の児童・生徒たちが、「人は『釜石の奇跡』というが、僕たちは『実績』だと思っている」（NHK 『シンサイミライ学校 片田敏孝先生のいのちを守る特別授業』より）と言える児童・生徒の防災意識への定着度は、地域での防災の大切さを教えてくれました。

災害のおこる時間帯においては、小・中学生が地域における大きな力ともなります。その力が地域に求められることとなります。そうした災害時に、力を発揮できるように、普段の学校生活や家庭での生活の日常の生活を振り返るとよいでしょう。

「自分の命を守ること（自助）」「周りの人たちを助けること（共助）」「自治体等ができること（公助）」の視点から防災を考えていくことが大切です。

12-1 中学校 総合的な学習の時間

指導事例

「地域の伝統や文化をよりよいもので継承しよう」

【単元目標】

地域にある伝統や文化を知り、他の地域の伝統や文化と比べて、よりよくするために必要な課題を考える過程から、地域に対する自分の考えをもつことができる。

【目指す子どもの姿】

地域の中で、自分ができていることを考え、他の人との協議から考えを深めていく姿

1 本単元の流れと「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

学 習 活 動 (全 11 時 間)	ポイントになる学びのプロセス
<p>地域を知り、伝統や文化に関するよさや思いを知る</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の地域を探訪し、地域のよさを発見する。 自分の地域の伝統に関わった人々の願いや思いを知る。 	
<p>地域の伝統や文化をよりよくする方法を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の地域における伝統や文化を知る。 自分の地域の伝統や文化をよりよくするうえで、どんな視点や取組が必要となるかを考える。 	
<p>課題解決のために情報を集めて、自分の考えをつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の地域と他の地域の伝統や文化について、ポイント1 比較、検討する過程から課題を見つける。 様々な課題からどの視点で進めるか、個人や学級で検討、協議して決める。 課題解決に必要な情報を集め、自分の考えをもつ。 	<p>多面的・多角的に 考える</p>
<p>自分の考えを、他の人との協議を通して深める</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを表現し、他の人に伝える。ポイント2 異なる意見や他者の考えを聞き、自分の考えにはない視点や新たな考えをもつ。 	<p>自分の考えを 再構築する</p>
<p>地域に関して、伝統や文化のこれからの姿を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> 協議から学んだことで、今後自分たちのできることを考える。 今後の対策の方向性として、課題や疑問に感じられるところは何かを考え、解決するための手立てを立てて活動する。 	

2 政治的教養を育むためのポイント

ポイント1

自分たちの地域の文化や伝統を考えるうえで、他の地域の文化や伝統を知ること、多角的な見方や考え方をもちまわらせよう。

社会に主体的に参画していくために、学校での授業において、生徒の主体的な実践につなげる授業にすることが重要です。

本単元は地域を考えた主体的な子どもの育成につながるよう、他の地域の文化や伝統との比較の方法が重要になります。自分の住んでいる地域と他の地域を比べるために、様々な方法を用いることがその後の学習につながります。年表等を使って時系列で変化の様子をまとめたり、思考ツールを活用して思考の方向性を決めて考えたりして、各教科で学習した方法を使うことで、さまざまな視点をもつことができるように、場面を設定しましょう。その過程を通して、地域のことを知るだけでなく、地域を自分のこととしてとらえることができるでしょう。

調査内容を統計的な手法を使い、目に見える形に整理し、事象の特徴をとらえる。
例) 調べた結果をグラフに表す 棒グラフ(××におけるゴミの量)、折れ線グラフ(の高齢者の人数の変化)、円グラフ・帯グラフ(の体力測定結果)等

他の地域の文化や伝統についての情報をどの側面から提示するかを工夫し、生徒が学習する際に主体的に課題に取り組めるようにしましょう。地域の文化や伝統を知り、現在にどのようにつながっているかを理解することで、関心をより高めていくでしょう。興味や関心から、生徒の気付きがより多くなっていきます。

ポイント2

様々な考えによる協議を重ね、生徒の自主的な考えの再構築を支援していきましょう。

生徒にとって学校は身近であり、そして多くの考えを出し合える場とあっていいでしょう。自分の考えをもち、他の人と交流し、協議することは、中学生にとっては政治的な教養を育むべき社会参画の場といえます。この協議を自分のこととしてとらえ、考えを深めるには、意見を発表させるだけでなく、聞く立場としての準備や関わり方を丁寧に指導していくことが重要になります。

思考を深め、探究活動を発展するために情報を整理し、考えをより明らかにする。
例) 振り返りカード 新たな情報の整理や視点の明確化等をポイントに再構築する。
・発表から気付いたこと等、情報を整理し、自己の考えと比較・関連させる。
・「もっと知りたいこと」「やってみたいこと」等の視点から、考えを整理する。

生徒一人ひとりの意見を、クラスの中で話し合える雰囲気醸成され、自分の意見だけに執着せず、他の生徒の意見も聞けるようにすることが大切です。また、協議の流れにより話し合いの柱がどの方向に進んでいくかを、教員はしっかりと見定めていくことも大切です。

12-2

中学校 総合的な学習の時間 指導事例 「地域の高齢者と共に生活する社会を創るには」

【単元目標】

高齢者と共に生活していく現在の社会を問題意識をもって見つめ直すとともに、高齢者疑似体験や施設での交流等から自らの課題を見つけ、これからの社会の形成者として、それらの課題に対して自分で何ができるか考え、行動しようとする態度を養う。

【目指す子どもの姿】

高齢者の思いを受け止め、共に生きていく社会をつくっていかうとする姿

1 本単元の流れと「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

学 習 活 動 (全 8 ~ 12 時 間)	ポイントになる学びのプロセス
<p>60年先の自分は地域でどんな暮らしをしているだろう？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・60年後のイメージがわきにくいので、地域でみかける高齢者の様子や関わりから、自分の姿を想像してみる。 ・高齢者の様子や関わりから、今の自分が感じたことや考えたことを話し合い、そこから見えてくる課題を探る。 	<p>ポイント1</p> <p>関心をもつ</p>
<p>高齢者の疑似体験をしてみよう ~</p> <ul style="list-style-type: none"> ・装具を装着して、歩行や字の読み書きなどをする。 ・<装具> 特殊メガネ、ヘッドホン型耳栓、荷重チョッキ、手袋、手首・足首の重り、肘・膝のサポーター等 ・体験から感じたことや考えたことを発表し合う。 ・今の自分が高齢者にできることや将来高齢者になった自分が暮らす社会に望むことなどをレポートにまとめる。 	<p>課題に気付く</p> <p>ポイント2</p>
<p>体験で何が変わった？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験後、地域で高齢者を見て、以前と気持ちの変化があったか、また、何かしら関わりがもてたか、もてたとしたらどうだったか発表し合う。 	<p>主体的に行動する</p>
<p>高齢者介護施設でボランティア体験をしてみよう ~</p> <p>*施設での体験が難しければ、高齢者や介護に従事している方に来校していただき、お話を伺ってもよい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護施設に来ている(暮らしている)高齢者と接して感じたことや考えたことをまとめ、発表し合う。 ・高齢者の介護に従事する方々から、介護について普段思っていることについて伺ったり、高齢者と共に生きていく社会についての質問をしたり、意見を伺ったりする。 	<p>多面的・多角的に考える</p>
<p>共に生きていく社会を創っていくには ~</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの体験等から地域の高齢者と共に生きていく社会の形成者として自分の意見をレポートにまとめ発表する。 	<p>ポイント3</p> <p>社会に参画しようとする</p>

2 政治的教養を育むためのポイント

ポイント1

いろいろな見方・考え方をもつことが大切です。

地域の高齢者の姿から将来の自分とその自分が暮らす社会を想像し、自分のこととして考えさせることで、課題を見つけさせやすくすることができます。

また、ハード面（施設等）や制度面（生活補助等）での支援がまず思い浮かぶと考えられますが、高齢者と関わり、接していくことでソフト面（喜びの共有や高齢者自身の自己有用感等）の重要性が浮かび上がってきます。

例）祖母と一緒に買った買い物で気付いたことから、自らの課題を見つけようとする

荷物を持ってあげるのはもちろん、ゆっくりゆっくり歩いた。（歩くことも大変なんだ。）

【生徒の思い】

助けてもらえるのはもちろんありがたいけれど、何より一緒に買い物に行けることがうれしい。【祖母の思い】

ポイント2

体験をとおして感じた思いを大切にさせましょう。

疑似体験では、装具を借りるだけでなく、ボランティアの方々が、説明や補助をしてくれることもあります。まずは、電話で相談してみましよう。

<生徒の感想例> 装具をつけた時、高齢者の皆さんはこんなにも重さがかかる事にとっても驚きました。また、特殊メガネをかけて、白内障とはどのように感じるかを体験したとき、光が明るい場所がとても見にくく、新聞では大きい文字しか見えず大変でした。歩いている時に感じたのは足のだるさです。高齢者の多くの方々が、足が上がらず転んでしまったりしてしまうのを耳にしますが、体験をしてそのことがよくわかりました。周りの助けがとてもありがたいことに気づいたので、私も何か手助けできるようにしたいと思いました。

体験をとおして、生徒はイメージだけでは難しかった高齢者の体の動きやそれに伴う心の変化などを感じることができます。体験後、自分から次のアクションを起こしてみたいと考えることは社会の形成者としての第一歩となることから、その思いを大事にしていましよう。

ポイント3

当事者やその関係者の声を聴いて考えさせましよう。

心が揺さぶられる体験をしたり思いを聞いたりすると、「自分はこうしたい」といった、さらに豊かな社会の形成者を目指す目標ができます。課題を一段深く掘り下げて自分の考えをまとめさせていきたいところです。また、今までの自分の感想やレポートはポートフォリオとして1冊にまとめ、自分の考えの変化を振り返る資料として生かしていましよう。

<生徒の感想例> ゲームや配膳のお手伝いをしたけど、最後お別れの時には、涙を流して「ありがとう、また来てね」と言ってもらった。僕もうれしかった。

<高齢者介護施設の方のお話> いろいろなご事情から、なかなかこちらに顔を見せられないご家族もいます。行政や議員さんにも働きかけて、家族に負担なく、さらに、家族と共に気軽にサービスを利用しやすいような仕組みづくりができればいいと思っています。

13 指導例の実践

児童・生徒がどのような場面で自分の意思を決め、どのようなやりとりのなかで合意形成を図っていくのかを、指導例を使用し小学校、中学校で授業を行いました。

◆7-4 小学校 5年生社会科「自然災害とともに生きるわたしたち」の実践

(1) 学習活動の実際

①「友だちの考えを聞いたうえで、考えをまとめよう」の場面

前時までの授業で児童は、大震災がおこっても「私の家は高い所にあるから津波は来ない」や「いざというときは防災グッズを持って逃げれば大丈夫。」という考えをもっていました。この時間では、児童にとってより切実感をもって考えることができるように、新たに震災直後の火災や津波の資料などを示しました。すると、小グループの話し合いの中で、「家の中に自分一人だったら、どうすればよいだろう」という新たな学習課題が生まれました。

C1：私は一人だったら、ずっとペットという。

C2：ペットは避難所に連れて行けないよ。

C1：どうして？

C2：だって、ペット嫌いな人もいるし、アレルギーの人もいる。

C3：私はペットのことを考えている余裕がないと思うな。

C1：私にとっては家族同然だよ…見捨てられない…



このように、より自分のこととして、具体的な状況を考えることができるようになりました。

②次の授業時間につながる学習課題の設定

小グループで話し合われた内容を取り上げ、次時の学習課題として「ペットは避難所に連れていくことができるのだろうか？」と発展することになりました。次時の学習に向けて、実際に市役所や保健所に電話をしたり、インターネットで調べたりする児童の意欲的に取り組む姿がありました。

(2) 本単元を実施してみてもの課題

- 大きな災害を体験したことがない児童が多く、大災害の映像資料を何のために見せるのかというねらいを明らかにし、児童の実態に合わせて、資料を厳選して提示することが求められます。
- 児童一人ひとりが「主体的に考える」「自分なりの考えをもつ」「他者の考えをとおして自分の考えを再構築する」ことをねらい、授業を構成しました。このようなねらいを単元ごとに、または、1時間ごとに授業者が明確にもちながら日々実践していくことが求められます。

児童の意欲や思考をどこまで伸ばせるか、深められるかが、これからの課題として考えられます。

◆10-2 中学校 2年生社会科[地理的分野] 「鎌倉の防災について考えよう」の実践

(1) 学習活動の実際

①「これからの鎌倉について話し合おう」の場面

鎌倉の防災について個人で調べた内容を、同じ意見同士の小グループになり、他者の意見を参考にしつつ、自分のグループの意見の根拠を明らかにしていきます。その後、小グループで発表して、その意見に対する討論を行いました。

発表：私たちは鎌倉の観光業、第三次産業を守るためには堤防が必要だと思います。

S 1：堤防をつくるお金はどこから出るの？

S 2：私は反対です。調べてみたんだけど、実際に堤防をつくと、私たち市内中学生の教育費の約3倍くらいかかるらしいです。

S 3：堤防をつくることに賛成です。鎌倉市民の税金でやるしかないと思います。

S 4：観光業をまもるためだから、私は企業にお金を出してもらえばいいと思います。



発表した意見に対して、調べてきた資料を基に数値的な根拠から賛成意見や反対意見、その他の考え等が出てきました。

②生徒の感想より

堤防の建設をめぐるっては、いろいろ対立するけど、一番大切なのは一人でも多くの命を守ることだから、それを軸として考えていくことが大切じゃないかと思いました。そのためにも、まずは市民が現実を知って、いろんな立場に立って、真剣に考えていくことが重要だと思います。

メリット、デメリットともにあることが分かりました。自分たちではよいと思っていた考えも、他のグループからはデメリットが多くでることもあり困りました。また、意見が対立することも多くあり、それをふまえて考えていくのが大切だと感じました。

(2) 本単元を実施してみたの課題

- 本単元は地理的分野の学習単元で行いましたが、経済面（特に財政面）について知識がないと、実現できない空想の話し合いになってしまいます。現実的な問題として防災について扱うためには、経済上の課題を解決しないと実現が不可能なので、公民的分野や総合的な学習の時間でも扱うなどして今後の学習にも継続していくことが大切です。
- 学習課題のとらえる内容が大きすぎると、様々な意見も出るため、話し合いで議論が深まらない可能性があります。本授業例でいえば「堤防をつくるべきか」という学習課題に絞れば、意見が様々な内容に拡散できずにできたと感じます。討論の流れの中では、教師が主導で焦点を絞っていくことが必要です。

14 選挙管理委員会の取組

県選挙管理委員会の取組

(1) 明るい選挙啓発ポスターコンクール

県選挙管理委員会は、市区町村選挙管理委員会及び公益財団法人明るい選挙推進協議会などとともに、小学校、中学校及び高等学校等の児童・生徒を対象として、明るく正しい選挙を呼びかける啓発ポスターを毎年度募集しています。

応募いただいた作品のうち優秀な作品については、賞状及び副賞を贈呈し、表彰するとともに、展示会を開催しています。さらに、一部の作品については選挙の啓発に活用しています。



平成 28 年度表彰式



展示会

(2) 大学学園祭等出前事業

大学の学園祭に集う学生や地域住民の方々を対象に、政治と選挙に対する関心を高め、投票率の向上につなげるため、県内大学の学園祭にブースを出展しています。クイズや展示などを通じて、投票参加の重要性を周知しています。

平成 27 年度：東海大学、平成 28 年度：横浜国立大学



平成 28 年度大学学園祭出前事業



市区町村選挙管理委員会の取組

(1) 選挙出前授業

小学校、中学校、高等学校等の児童・生徒を対象に出前授業を実施しています。

児童・生徒が選挙に関する正しい知識を習得できるよう市区町村選挙管理委員会の職員等が講師となって講義するほか、模擬投票を実際の選挙に近い形で実施するなど、児童・生徒が自ら考え、投票することの重要性を学ぶ場となるよう、各市区町村選挙管理委員会が工夫して実施しています。



小学校での出前授業

(2) 投票箱等選挙機器材の貸出し

選挙を身近に感じ、関心を深めるきっかけになるよう、投票箱や記載台等、実際の選挙で使用される道具を小学校、中学校等に貸し出しています。

生徒会の役員選挙や授業等で使用することができます。



投票箱

(3) 作品募集事業

明るい選挙啓発ポスターコンクールのほかにも、一部の市区町村選挙管理委員会では、作文、標語、書道の作品を募集しています。優秀な作品については、表彰するとともに、展示会や選挙時の啓発事業で活用しています。

作品募集の有無、内容等については、各市区町村選挙管理委員会のホームページ等で確認してください。



習字作品の展示

◆市区町村・県の選挙管理委員会所在地等一覧

市区町村名	郵便番号	所在地	電話番号
横浜市	231-0017	横浜市中区港町1-1	045-671-3337
鶴見区	230-0051	横浜市鶴見区鶴見中央3-20-1	045-510-1660
神奈川区	221-0824	横浜市神奈川区広台太田町3-8	045-411-7014
西区	220-0051	横浜市西区中央1-5-10	045-320-8314
中区	231-0021	横浜市中区日本大通35	045-224-8116
南区	232-0024	横浜市南区浦舟町2-33	045-341-1227
港南区	233-0004	横浜市港南区港南中央通10-1	045-847-8308
保土ヶ谷区	240-0001	横浜市保土ヶ谷区川辺町2-9	045-334-6207
旭区	241-0022	横浜市旭区鶴ヶ峰1-4-12	045-954-6012
磯子区	235-0016	横浜市磯子区磯子3-5-1	045-750-2315
金沢区	236-0021	横浜市金沢区泥亀2-9-1	045-788-7712
港北区	222-0032	横浜市港北区大豆戸町26-1	045-540-2213
緑区	226-0013	横浜市緑区寺山町118	045-930-2213
青葉区	225-0024	横浜市青葉区市ヶ尾町31-4	045-978-2205
都筑区	224-0032	横浜市都筑区茅ヶ崎中央32-1	045-948-2215
戸塚区	244-0003	横浜市戸塚区戸塚町16-17	045-866-8315
栄区	247-0005	横浜市栄区桂町303-19	045-894-8315
泉区	245-0016	横浜市泉区和泉町4636-2	045-800-2315
瀬谷区	246-0021	横浜市瀬谷区二ツ橋町190	045-367-5615
川崎市	210-8577	川崎市川崎区宮本町1	044-200-3425
川崎区	210-8570	川崎市川崎区東田町8	044-201-3124
幸区	212-8570	川崎市幸区戸手本町1-11-1	044-556-6604
中原区	211-8570	川崎市中原区小杉町3-245	044-744-3128
高津区	213-8570	川崎市高津区下作延2-8-1	044-861-3124
宮前区	216-8570	川崎市宮前区宮前平2-20-5	044-856-3126
多摩区	214-8570	川崎市多摩区登戸1775-1	044-935-3128
麻生区	215-8570	川崎市麻生区万福寺1-5-1	044-965-5109
相模原市	252-5277	相模原市中央区中央2-11-15	042-769-8290
緑区	252-5177	相模原市緑区西橋本5-3-21	042-775-8820
中央区	252-5277	相模原市中央区中央2-11-15	042-769-9259
南区	252-0377	相模原市南区相模大野5-31-1	042-749-2117
横須賀市	238-0006	横須賀市日の出町1-5ヴェルよこすか2F	046-822-8499
平塚市	254-8686	平塚市浅間町9-1	0463-21-8795
鎌倉市	248-8686	鎌倉市御成町18-10	0467-61-3874

市区町村名	郵便番号	所在地	電話番号
藤 沢 市	251-0026	藤沢市鶴沼東1-2 藤沢プラザ本館5階	0466-50-3564
小 田 原 市	250-8555	小田原市荻窪300	0465-33-1741
茅ヶ崎 市	253-8686	茅ヶ崎市茅ヶ崎1-1-1	0467-82-1111
逗 子 市	249-8686	逗子市逗子5-2-16	046-872-8154
三 浦 市	238-0221	三浦市三崎町六合32	046-882-1111
秦 野 市	257-8501	秦野市桜町1-3-2	0463-82-9661
厚 木 市	243-8511	厚木市中町3-17-17	046-225-2490
大 和 市	242-8601	大和市下鶴間1-1-1	046-260-5542
伊 勢 原 市	259-1188	伊勢原市田中348	0463-94-4711
海 老 名 市	243-0492	海老名市勝瀬175-1	046-235-4905
座 間 市	252-8566	座間市緑ヶ丘1-1-1	046-252-8481
南 足 柄 市	250-0192	南足柄市関本440	0465-73-8039
綾 瀬 市	252-1192	綾瀬市早川550	0467-70-5646
葉 山 町	240-0192	三浦郡葉山町堀内2135	046-876-1111
寒 川 町	253-0196	高座郡寒川町宮山165	0467-74-1111
大 磯 町	255-8555	中郡大磯町東小磯183	0463-61-4100
二 宮 町	259-0196	中郡二宮町二宮961	0463-71-3311
中 井 町	259-0197	足柄上郡中井町比奈窪56	0465-81-1111
大 井 町	258-8501	足柄上郡大井町金子1995	0465-85-5001
松 田 町	258-8585	足柄上郡松田町松田惣領2037	0465-83-1221
山 北 町	258-0195	足柄上郡山北町山北1301-4	0465-75-3643
開 成 町	258-8502	足柄上郡開成町延沢773	0465-84-0310
箱 根 町	250-0398	足柄下郡箱根町湯本256	0460-85-7111
真 鶴 町	259-0202	足柄下郡真鶴町岩244-1	0465-68-1131
湯 河 原 町	259-0392	足柄下郡湯河原町中央2-2-1	0465-63-2111
愛 川 町	243-0392	愛甲郡愛川町角田251-1	046-285-2111
清 川 村	243-0195	愛甲郡清川村煤ヶ谷2216	046-288-1212

神 奈 川 県	231-8588	横浜市中区日本大通1	045-210-3179
---------	----------	------------	--------------

投票箱、記載台等の貸出しや、選挙出前授業の御相談は、学校の所在地にある各市区町村の選挙管理委員会に連絡してください。

15 参考資料

○文部科学省

- 小学校学習指導要領解説 生活編（平成 20 年 8 月）
- 小学校学習指導要領解説 社会編（平成 20 年 8 月）
- 小学校学習指導要領解説 特別活動編（平成 20 年 8 月）
- 小学校学習指導要領 総合的な学習の時間編（平成 20 年 8 月）
- 中学校学習指導要領解説 社会編（平成 20 年 9 月）
- 中学校学習指導要領解説 特別活動編（平成 20 年 9 月）
- 中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編（平成 20 年 9 月）

○文部科学省

- 「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」（平成 22 年 11 月）
- 文部科学省
「教育課程企画特別部会における論点整理について」（平成 27 年 8 月）
- 文部科学省初等中等教育局長通知
「高等学校等における政治的教養の教育と高等学校等の生徒による政治的活動等について」（平成 27 年 10 月）
- 文部科学省
「次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ」（平成 28 年 8 月）
- 総務省・文部科学省
副教材『私たちが拓く日本の未来』（平成 27 年 12 月）
- 副教材『私たちが拓く日本の未来』教師用指導資料（平成 27 年 12 月）
- 法務省ホームページ
「私法分野教育の充実と法教育の更なる発展に向けて」
- 国立教育政策研究所
「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる 特別活動（小学校編）」（平成 26 年 8 月）
- 国立教育政策研究所
「学級・学校文化を創る 特別活動（中学校編）」（平成 28 年 3 月）
- 神奈川県教育委員会
「かながわ教育ビジョン」（平成 19 年 8 月）
- 神奈川県立総合教育センター
「シチズンシップ教育」推進のためのガイドブック（平成 21 年 3 月）
- 神奈川県教育委員会
「政治参加教育 指導用参考資料集」（平成 27 年 9 月）
- 横浜市選挙管理委員会
「あと 3 年・民主主義と選挙」（平成 27 年 9 月）
- 川崎市教育委員会
「自分の意思が社会を創る - 主権者教育の手引き -」（平成 28 年 3 月）

「小・中学校における政治的教養を育む教育」検討会議

慶應義塾大学SFC研究所	上席所員	西野 偉彦	<座長>
神奈川県公立小学校長会	副会長	福田 茂	
神奈川県公立中学校長会	副会長	加藤 雄司	
座間市教育委員会	教育長	金子 槇之輔	
神奈川県教育委員会教育局中教育事務所	所長	森 英夫	
神奈川県立相模原中等教育学校	校長	坂本 和彦	
神奈川県選挙管理委員会	書記長	井上 和子	

<作業部会>

神奈川県公立小学校教頭会	会長	原崎 陽一
神奈川県公立中学校教頭会	書記	大谷 京司
横浜市教育委員会事務局指導部指導企画課	指導主事	前田 総一郎
川崎市総合教育センターカリキュラムセンター	指導主事	石井 芳宏
相模原市教育委員会教育局学校教育部学校教育課	指導主事	菅原 勝
横浜国立大学教育人間科学部附属横浜小学校	教諭	笠谷 直人
横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉中学校	教諭	松本 明宏
神奈川県教育委員会教育局湘南三浦教育事務所指導課	指導主事	松田 寿雄
神奈川県教育委員会教育局支援部子ども教育支援課	課長	宮村 進一

<事務局（神奈川県教育委員会）>

指導部高校教育課	指導主事	浅井 祐一
支援部特別支援教育課	指導主事	立花 裕治
支援部子ども教育支援課	専任主幹	古島 そのえ
支援部子ども教育支援課	指導主事	下反 達二
支援部子ども教育支援課	指導主事	後藤 幹夫
支援部子ども教育支援課	指導主事	櫻井 英明
支援部子ども教育支援課	指導主事	吉澤 晋

「小・中学校における政治的教養を育む教育」指導資料

発行 平成 29 年 3 月
発行者 神奈川県教育委員会
〒231-8509 横浜市中区日本大通 33
TEL(045)210-1111 (代表)

本冊子はホームページで閲覧できます